

前項ノ罰則ハ馬匹管理人又ハ總代人ニ於テ處辨スヘキ事項ニ在テハ其ノ管理人又ハ總代人ニ適用スルモノトス

附則

第二十六條 本規則中市トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區ニ該當ス

第二十七條 本規則中市長トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長ニ該當シ町村長トアルハ戶長及之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第二十八條 臺灣、沖繩縣、北海道所屬ノ島嶼其ノ他町村制ヲ施行セサル島嶼ニハ當分本規則ヲ施行セス但シ該地方ノ現住者中其ノ所有ノ馬匹ヲ本規則施行地ニ置ク者其ノ馬匹ニ關シテハ此ノ限リニアラス

第二十九條 明治三十年ニ限リ馬匹ノ所有者ハ第一條ノ手續ノ外四月一日調ヲ以テ馬匹ノ現在届書ヲ同日ヨリ十日以内ニ現住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

第三十條 明治三十年ニ限リ北海道外ノ郡市町村長ハ第四條及第五條ノ手續ヲ二回施行スヘシ

但シ第一回ノ馬匹調査表ハ市町村長ニ在テハ第二十九條ノ現在届書ニ依テ調制シ其ノ差出期限ハ町村長ニ在テハ四月二十五日迄郡市長ニ在テハ五月二十日迄トス第三十一條 明治三十年ニ限リ北海道外ノ郡市町村長ハ第七條第八條及第九條ノ手

續ハ九月ヨリ行フヘシ

第三十二條 明治三十年ニ限リ北海道現住ノ馬匹所有者中其ノ馬匹ヲ同道内ニ置ク者ハ同年八月盡日迄ハ第二條第二十三條第二十四條及第十九條ノ手續ヲ行フニ及ハズ

第一号書式 (用紙半紙)

馬匹現在届

一性

一年令

一用役

一体尺

一毛色

右現在候也

年月日

現住所

馬匹所有者(總代人)(管理人) 氏名

印

市町村長宛

注意

一 此届書ハ馬匹二頭毎ニ調製スルモノトス但シ多數ノ馬匹ヲ所有者ハ管理スル

- 者ノ届書ハ第二号書式ニ據ルコトヲ得
 - 二 性ノ處ニハ「牡」又ハ「牝」ト記載スヘシ
 - 三 用役ノ處ニハ乘馬ニ適スヘキカ鞍馬ニ適スヘキカ又ハ駄馬ニ適スヘキカ其ノ見込ヲ定メテ(乘馬何)(鞍馬何)又ハ(駄馬何)ト記載スヘシ但シ四歳以下ノ馬匹中見込ヲ定メ難キ幼齡ノモノニ限り(用役未定)ト記載スヘシ
 - 四 体尺ハ肩ノ最モ高キ處ヨリ地面ヘ垂直ニ測リタルモノヲ記載スヘシ
 - 五 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスルモノ届書ニハ氏名ノ上ニ(營業所有者)若クハ(營業所有者總代人)又ハ(營業所有者ノ馬匹管理人)ト記載スヘシ
- 第二号書式 (用紙半紙野紙)

馬匹現在届

- 一 性
- 一 五歳以上 (四歳以下)
- 一 用役
- 右何頭々在候也

内 譯		年 齡	体 尺	毛 色
現住所				
馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人) 氏 名 印				
年 月 日				
市町村長宛				

注意

- 一 性、用役、体尺ノ記載方ハ一号書式ニ同シ
- 二 多數ノ馬匹ヲ所有者クハ管理スル者ノ届書ハ此書式ニ據ルコトヲ得但牝馬ノ

馬匹調査及検査施行規則

分ト牡馬ノ分トニ別チ五歳以上ノモノニ在テハ(乘馬何)(鞍馬何)(馱馬何)(
用役未定)毎ニ各ニ通宛調製スルモノトス
三 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスルモノ、届書ニハ氏名ノ上チ(營
業所有者)若ハ(營業所有者ノ總代人)又ハ(營業所有者ノ馬匹管理人)ト記載
スヘシ

第三號書式 (用紙半紙)

馬匹出届

一性
一年齡
一用役
一体尺
一毛色
右何市町村何誰へ讓渡(死亡)又ハ(撲殺)(屠殺)(失踪)(飼養所ヲ何市町村へ轉シ)
(徵發免除ノ資格ヲ得)候也
年月日
現住所
馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人)氏名 印

市町村長宛

注意

一 此ノ届書ハ一頭毎ニ調製スルモノトス
二 性ノ處ニハ(牡)又ハ(牝)ト記載スヘシ
三 年齡、用役及体尺ハ前回差出シタル現在届書ハ入届ニ記載シタルモノト同シ
四 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスル者ノ届書ハ現在届ノ注意ノ五若
ハ三ヲ用ユヘシ

第四號書式 (用紙半紙)

馬匹入届

一性
一年齡
一用役
一体尺
一毛色
右何市町村何誰ヨリ讓受(出生)(踪跡發見)(飼養所ヲ現住市町村へ轉シ)(徵發免除
ノ資格ヲ失ヒ)候也
年月日
現住所
馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人)氏名 印

馬匹調査及検査施行規則

市町村長宛

注意

- 一 此ノ届書ハ馬匹一頭ニ調製スモノトス
 - 二 性ノ處ニハ(牡)又ハ(牝)ト記載スヘシ
 - 三 用役ノ處ニハ乘馬ニ適スヘキカ鞍馬ニ適スヘキカ駄馬ニ適スヘキカ其見込ヲ定メテ(乘馬何)(鞍馬何)(駄馬何)ト記載スヘシ但シ四歳以下ノ馬匹ニテ其ノ見込ノ定メ難キ幼齡ノモノニ限リ(用役未定)ト記載スヘシ
 - 四 体尺ハ一号書式ノ注意四ト同シ
 - 五 モ一号書式ノ注意五ト同シ
- 書式中、五號、六號、七號、八號ノ各號ハ之ヲ略ス

狩獵法

(明治二十八年三月二十日法律第二十號)

第一章 獵具獵法

第一條 此法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、網繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、据銃若ハ危險ナル毘及陷穿ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下做之)ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、氣車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地
- 七 欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ欄、柵、圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ

經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等 所得稅十五圓以上若クハ地租二百圓以上 甲種金五圓

二等 所得稅三圓以上若クハ地租四十圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族 乙種金十圓

三等 一等二等以外ノ者 甲種金三圓 乙種金五圓

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ許可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有セサル者ヲ同伴スルコトヲ得ス

第十二條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ他ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

免狀亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ手動料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未滿ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條 遊歩規定ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種金十圓ノ免許稅ヲ納メ其ノ規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規格外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効タルモノトス

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内ニ於テ販賣スルハ此限ニ在ラズ

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依リ販賣ス

ルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保證鳥獸ノ種類及制限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取り若ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條 捕獵ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルト

キハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章 罰則

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ

受ケタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル

者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條、第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル

者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管

理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上

一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノ

トス

第二十五條 此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セズ引續キ

狩獵ヲ爲スコトヲ得

●狩獵法施行細則

(明治二十八年三月二十七日農商務省令第四號)

第一條 狩獵法第一條ニ掲クル各種ノ網ハ無罾、投網、霞網其他ノ張網トシ網繩ハ流

シ網張、網繩トシ又撲ハ高撲千本撲トス

第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢

ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタル

コトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ム

ヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條 狩獵免許狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ)ニ又其移轉ノ地其他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ届出ツヘシ

第六條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條 地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ
(制札ノ雛形ハ略ス)

第八條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
免許ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ

第九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ
前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

第十條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明

記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ廢シタルトキ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ選ビ左ノ雛形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察署ニ届出ツヘシ
(木標ノ雛形ヲ略ス)

第十二條 公益ノ爲メニ必要ト認ムルトキ又ハ免設人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ鵜區ニモ適用ス

第十四條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

- 一 鶴
- 一 燕(岩燕ヲ除ク)
- 一 小雀
- 一 日雀
- 一 四十雀

- 一 五十雀
- 一 柄長
- 一 鵓鷄
- 一 杜鵑
- 一 郭公

第十五條 左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

- 一 雉
- 一 鶺鴒

第十六條 左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

- 一 鶺鴒
- 一 椋鳥
- 一 鶺鴒
- 一 雲雀
- 一 鶺鴒
- 一 鶺鴒
- 一 小啄木
- 一 雷鳥
- 一 松鷄
- 一 鳩(鶺鴒ヲ除ク)

第十七條 北鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ牡鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條 北海道ニ於テハ第十七條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條 營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官ニ届出ツヘシ

第二十條 保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル狩獵免許徵收税ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月十五日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義

兼大藏大臣 農商務大臣 子爵 榎本武揚

法律第七號

狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許税ハ税額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトス

此法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

登錄稅法 (明治二十九年三月二十七日法律第二十七號)

第一條 登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニヨリ賦課徵收ス

第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 買受人 賣買代價千分ノ二十二

二 家督相續人 戶主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共 時價相當價格千分ノ五

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價相當價格千分ノ十トス

三 遺產相續人 時價相當價格千分ノ十

四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十

五 質入又ハ書入人 契約金額千分ノ五

六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五

七 強制管理ノ申立人又ハ假差押假處分ノ申請人 價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルトキハ時價相當價格ニヨル

第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

登錄稅法

二百五

- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
 - 二 家督相續人 戸主ノ死亡、失踪 時價相當價格千分ノ二
離縁、跡相續人共 時價相當價格千分ノ五トス
但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ 時價相當價格千分ノ五
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 契約金額千分ノ五
 - 五 質人人又ハ書入人 價格千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ三
 - 七 假差押、假處分ノ申請人 每一件金拾錢
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一
 - 六號及七號ノ場合ニ於テ價額定マラサルモノハ時價相當價格ニヨル
- 第四條 船籍ノ登簿ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録 十五噸未満ノ船舶 金五十錢
 - 二 轉籍 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五十錢
 - 三 除籍 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五十錢
 - 三 除籍 十五噸未満ノ船舶 金五錢
 - 三 除籍 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五錢
 - 四 登録事項ノ變更 每一件金十錢

- 一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ十噸未満ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
 - 第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録 地價千分ノ二十
 - 二 地價設定(復舊共) 地價千分ノ十
 - 三 地價修正 地價千分ノ十
 - 四 開墾 地價千分ノ十
 - 五 鋤下年期付與 地價千分ノ十
 - 六 地價据置年期付與 地價千分ノ十
 - 七 鋤下年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 八 新開免租年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 九 低價年期ノ付與 地價千分ノ十
 - 十 別段ノ増減 地價千分ノ五
 - 十一 分裂又ハ合併 地價千分ノ十
- 本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル
- 第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クハ商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
- 二 合名會社、合資會社資本増加 増加資本金額千分ノ二
- 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額萬分ノ二
- 四 株式會社設立 設立初度拂込資本金額千分ノ三
- 五 株式會社設立後ノ資本金拂込 每拂込金額千分ノ三
- 六 株式會社支店設置 現在拂込資本金額萬分ノ三
- 七 登記事項ノ變更 資本ノ増加及拂込追加 每一件金三圓
- 八 解散 每一件金一圓

第七條 左ノ事項ニ付キ辨護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 金二十圓
 - 二 登録換 金十圓
 - 三 取消ノ請求 金一圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録 金貳拾圓

藥劑師

獸醫

蹄鐵工

假開業醫師

假免許獸醫

二 登録事項ノ變更

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規登録

- 甲種船長 金拾五圓
- 甲種一等運轉手 金拾圓
- 甲種二等運轉手 金六圓
- 甲種一等機關手 金拾五圓
- 甲種二等機關手 金拾圓
- 乙種船長 金拾圓
- 乙種一等運轉手 金六圓
- 乙種二等運轉手 金四圓
- 乙種二等機關手 金拾圓

登録税法

乙種二等機關手
小形船機關手
水先人

金六圓
金四圓
金貳拾圓

二 登録事項ノ變更

每一件金五拾錢

第十條 版權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 普通ノ文書、圖畫

一種毎ニ金五圓

二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書、圖畫

一冊毎ニ金貳圓五拾錢

三 雜誌ノ類

一冊毎ニ金五拾錢

四 興行權ヲ併有スル脚本

一種毎ニ金五十圓

五 興行權ヲ併有スル樂譜

一種毎ニ金二十圓

六 寫眞

一版毎ニ金五圓

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

金二十圓

五年ノ特許

金三十圓

十年ノ特許

金四十圓

十五年ノ特許

每一件金十圓

二 賣與、讓與又ハ共有

三 書入契約

每一件金五圓

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

物品一類毎ニ金三圓

三年ノ專用

物品一類毎ニ金五圓

五年ノ專用

物品一類毎ニ金七圓

七年ノ專用

物品一類毎ニ金拾圓

拾年ノ專用

物品一類毎ニ金貳圓

二 賣與、讓與又共有

物品一類毎ニ金一圓

三 書入契約

物品一類毎ニ金一圓

第十三條 商標ニ關シテ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規並續用登録

商品一類毎ニ金二十圓

二 賣與讓與又ハ共有

商品一類毎ニ金拾圓

第十四條 鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 試掘

金五拾圓

二 採掘

金百圓

三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正

金二十五圓

- 四 採掘増區及減區ニ係ル訂正 金五十圓
 - 五 買受、讓受 金五十圓
 - 六 採掘權書入又ハ試掘延期 金拾五圓
 - 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
 - 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金拾圓
 - 九 廢業 金五圓
- 第十五條 削除
- 第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規記名 額面金額千分ノ二
 - 二 左ニ列記スルモノ 額面金額千分ノ一
- 記名變更 枚數變更
- 記名除却
- 第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テノ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
- 第十九條 削除
- 附則

- 第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
- 第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 登録税法施行細則 (明治二十九年三月三十日大藏省令第六號)
- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録稅ハ登録ニ關スル書類ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ
- 第二條 登録税法第十九條ニ該當スル者ハ登録ニ關スル書類ニ其該當スル事項ニ付記シ公署ニ差出スヘシ
- 第三條 貼用シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ其名下ノ印ヲ以テ消印スヘシ
- 登録税法施行手續 (明治二十九年三月卅日大藏省訓令第五號)
- 第一條 公署ニ於テ登録税法第十九條ニ依リ登録稅ヲ免除スヘキ者ノ書類ヲ受理シタルトキ稅法第十九條第一項後段ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ救助人名簿ニ照シ其相違ナキヲ認メ其前段ニ該當スル者ニ對シテハ其實際ヲ精査シ付記ノ事項相違ナキヲ認メ受理スヘシ
- 第二條 收稅署、市役所、區役所、町村役場、戶長役場若クハ日本銀行等ニ於テ登録稅法ニ依リ印紙ヲ貼用セル書類ヲ受理(上司ヘ差出ス爲メ經由スモノヲ除ク)シタルトキハ別ニ編綴セシメ置キ其貼用印紙ノ額面金額登録税法第二條乃至第十六條ノ

各條毎ニ區別シ毎年度分集計ヲ爲シ四月末日迄ニ當省ニ報告スヘシ
 第三條 官衙公署若クハ日本銀行ニ於テ印紙貼用シアル書類ヲ受理シタルトキハ其貼用印紙ニ黒肉ヲ以テ消印スヘシ又免税ニ屬スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ朱肉ヲ以テ免税印ヲ捺捺スヘシ

●酒造税法

(明治二十九年三月二十七日法律第二十八號)

第一條 此税法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精ノ六種トス
 第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 其ノ年十一月一日ヨリ翌年九月三十日マテテ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

第一種 清酒、白酒、味淋 一石金七圓

第二種 濁酒 一石金六圓

第三種 燒酎、酒精 一石金八圓

但シ當分ノ内北海道ニ於テ渡嶋國一圓後志國ノ内八郡磯谷郡、歌葉郡、壽都郡、奥尻郡、膽振國ノ内一郡山越郡ヲ除ク外一石ニ付金壹圓ヲ減ス太櫛郡、瀨棚郡、久遠郡、島收郡

第五條 新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非サレハ許可セス

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期 七月一日ヨリ今十五日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 九月一日ヨリ同十五日限

同上

第三期 翌年一月一日ヨリ同十五日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月一日ヨリ同十五日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脫稅又ハ脫稅ヲ謀ルノ所爲アルト認ムルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ密器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難ヤ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕漉シタル種類ハ粕漉ニ依ル増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醗ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモ

- ノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス
- 一 他人ニ讓渡ストキ
 - 二 公賣セラルルトキ
 - 三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ
- 第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其造石稅ヲ免ガルルコトヲ得ス
- 第十二條 左ノ酒類ニ例ル末納ノ造石稅ハ之ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
 - 二 酒類ノ腐敗シテ廢棄ニ屬シタルモノ
 - 三 腐敗シタル酒類ニシテ蒸溜酒ノ製造ニ供スルモノ
 - 四 容器損傷ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ
- 第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ造石稅半額ニ相當スル保證物ヲ供スヘシ保證物ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス
- 一 相當ノ納稅保證ヲ供シタルトキ
 - 二 納稅保證トシテ造石稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

- 三 造石稅ヲ前納シタルトキ
- 第十五條 酒類ヲ製造スル者稅金ヲ納メサルトキハ政府ハ納稅保證ニ供シタル保證物及保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ造石稅金ヲ徵收スヘシ但シ仍滯納アルトキ滯納處分ノ執行ヲ妨ケス
- 第十六條 納稅保證人ハ酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサルトキハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス
- 第十七條 酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
- 第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ質入シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
- 第十九條 收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物材料器械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク其ノ檢査監督ヲ受クヘシ
- 第二十一條 酒類ヲ製造セサル者其ノ製造ニ係ル醪ヲ飲料ニ供シ又ハ飲料トシ讓渡シタルトキハ濁酒ヲ製造スル者ト等ク其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類及酒類製造ノ爲酒母若ハ醪ヲ製造シ又ハ他人ヨリ讓受ケタル酒母若ハ醪ヲ以テ酒類ヲ製造シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ醪酒、濁酒、白酒、焼酎製造用ノ爲酒母一斗以下ヲ製造シ又ハ他ヨリ讓受ケタル酒母ヲ以テ醪、濁酒、白酒、焼酎ノ一種又ハ數種ヲ通シテ三石以下ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ本項前段ノ場合ニ於テ酒母ノ量數不明ナルモ其ノ製造シタル醪若ハ酒類ノ量數一種若ハ數種ヲ通シテ三石以下ナルトキハ仍本項ニ依ル

第二十三條 酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレントシタルトキハ其ノ石數ノ造石税三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石税三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十六條 納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滞納處分ヲ受クルモ仍税金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石税ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ受ケサル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ作リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此税法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ヲ廢止スルモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規定ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ稅法ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ特合アルモノヲ除キ府縣稅若ハ地方稅及市町村費ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十號ニ依ル
明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告

第三十八條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七嶋ニハ當分此ノ稅法ヲ施行セス

●酒造税法施行規則 (明治廿九年八月十七日勅令第二百八十七號)

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ其ノ酒類製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ居所氏名ヲ記シ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ商事會社ヲ組織シテ酒類ヲ製造セムトスル者ハ合名會社合資會社ニ在テハ其ノ契約書謄本ヲ添ヘ社員ヨリ

株式會社ニ在テハ發起認可書ヲ謄本及假定款謄本ヲ添ヘ發起人ヨリ申請スヘシ酒類ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキ又ハ製造スヘキ酒類ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面並ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ地方長官ニ提出スヘシ前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ每酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造法方及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ地方長官ニ申告スヘシ
前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造主ノ相續人ニ於テ其ノ製造事業ヲ繼續セムトスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申出製造繼續ノ免許ヲ受クヘシ
 相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 清酒ノ造石數ヲ査定スルトキハ其ノ石數ヨリ百分ノ二ヲ滓引減量シテ控除スヘシ但シ犯則ニ係ル清酒ハ滓引減量ヲ控除スルノ限ニ在ラズ

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル醪又ハ酒類ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ
 第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ檢査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費スルトキ若ハ公賣セララルトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨ

リ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等地方長官ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十七條 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十八條 酒造稅法第十二條ニ依リ未納造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ地方長官ニ申請スヘシ

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ト認ムルトキ又ハ腐敗ノ爲メ使用ノ途ナキヲ認ムルトキハ未納稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ
 腐敗酒ヲ以テ蒸溜酒ノ製造用ニ供セムトスルモノハ未納稅金ノ免除處分ヲ爲シ其

ノ酒類ハ燒酎又ハ酒精ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條 地方長官酒類ノ造石數ヲ査定シタルトキハ其ノ際酒類製造主ヲシテ酒造税法第十三條ニ依リ保證物ヲ提供セシムヘシ但シ酒類製造主ハ見込造石數ニ依リ豫メ保證物ノ提供ヲ申請スルコトヲ得

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ撰ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 金錢

二 利付國債證券地方債證券

三 政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

四 土地

五 酒類製造場内ノ建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル

第二十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地ハ土地臺帳ニ登記シタル地價建物ハ被保險額ニ依ル

第二十三條 酒類製造主保證物ヲ提供スルトキハ金錢有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ地方長官ニ提出シ土地建物ハ書入ノ登記ヲ爲スヘシ第三者ニ於テ酒類製造主ノ爲メ保證物ヲ提供スルトキ亦同シ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル証券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ地方長官ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ承諾スヘシ

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ地方長官ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條 地方長官ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタルト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 地方長官ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタルト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ地方長官ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 酒類製造主税金ヲ納メサルトキハ納税保證人ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシメ又ハ滯納處分ノ手續ニ依リ其ノ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣ス

納税保證人税金ヲ完納セサルトキ又ハ保證物若ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シ向ホ税金ニ不足アルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後尙ホ税金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ醸造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 地方長官容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其他ノ必要ナル事項ヲ標記又ハ略記スルコトヲ得

第三十四條 收税官吏ハ隨時酒類製造場ニ就キ酒類酒造用原料品、器具、器械、容器帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ

第三十五條 收税官吏ハ酒搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

收税官吏ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ原料用酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第三十六條 自己ノ所有ト否トナ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 酒造用原料品中酒母又ハ醪ノ檢査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醪ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ酒母、醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ檢査スヘシ其ノ檢査後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收税官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 酒類製造主左ニ掲クル事項ヲ行ハザルトスルトキハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込ムコト
- 二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト
- 三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト
- 四 仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和スルコト
- 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト
- 六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト

第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四十一條 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收税官吏ノ承

認テ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醗ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

酒類製造主ハ前項検査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醗ノ仕込、燒酎ハ酒精ノ造リ込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第四十四條 酒造稅法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造稅法第二條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ
第四十五條 酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

◎自家用酒稅法

(明治二十九年三月二十七日法律第二十九號)

第一條 濁酒、白酒、燒酎ニ限リ自家用トシテ製造セムトスル者此ノ稅法ニ依リ製造

免許出願スルトキハ政府ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 自家用酒ノ製造免許ハ一家一人ニ限ル其ノ稅造石數ハ各酒類ヲ合セテ一酒造年度間(其ノ年十月ヨリ翌年九月マテ)二石以下トス但シ直接國稅ヲ納メタル者及其ノ納額五圓未滿ノ者ハ其ノ造石稅一石ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 自家用酒ノ製造ヲナス者ニハ毎年度左ノ製造稅ヲ課ス

- 一 前條但書ニ該當スル者 金三圓
- 二 直接國稅五圓以上十圓未滿ノ者 金三圓
- 一石迄 金八圓
- 二石迄 金八圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年四月ヲ以テ納期トス但シ納期後ニ免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條 左ニ掲クル者及其ノ家族同居者同居ノ雇人ハ自家用酒製造ノ免許ヲ請フコトヲ得ス

- 一 直接國稅十圓以上ヲ納ムル者
 - 二 酒類製造營業人及酒類販賣人
 - 三 醬油製造營業人及醬油販賣人
 - 四 酒母又ハ醗製造人及酒母販賣人
 - 五 酢製造營業人及酢販賣人
 - 六 料理店飲食店旅人宿營業者
- 自家用酒製造ノ免許ヲ得タル者前各項ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ其ノ免許ノ效

カヲ失ラモノトス
第六條 自家用酒ハ製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルコトヲ得

第七條 收入官吏ハ自家用酒製造者ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 自家用酒製造者ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用酒ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 自家用酒製造者免許制限ヲ超過シテ酒類ヲ製造シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ酒造税法第四條ノ造石税ヲ課ス

前項ノ造石税ハ即時之ヲ徴收ス

第十條 自家用酒製造者元用トシテ清酒、味淋、酒精ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ酒造税法ニ依リ處分ス

第十一條 第七條ノ検査ニ關シテハ酒造税法第三十九條ヲ適用ス

第十二條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弁ス

第十三條 自家用酒製造者ノ家族、雇人、同居者ニシテ其ノ製造ニ關シ此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出ラサルヲ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十四條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十九年勅令第六十號ハ此ノ税法施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠嶋、伊豆七嶋ニハ當分此ノ税法ヲ施行セズ

附則
第十六條 自家用酒税法第一條ニ依リ自家用トシテ酒類ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所氏名及製造スル酒類並ニ左ノ種別ヲ記シ地方長官ニ申請スヘシ

第一種 造石數二石未滿

第二種 造石數一石未滿

前項申請書ニハ其ノ製造時期及酒類ノ製造方法ニ關スル事項ヲ附記スヘシ

附記事項ヲ變更シタルトキハ其ノ際申告スヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル酒類又ハ第一條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ更ニ第一條ノ申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ一酒造年度中ニ於テハ免許酒類又ハ種別ノ變更ヲ許可セズ

第三條 自家用酒製造者其ノ居所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第四條 自家用酒ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申告シ免許ノ取

消ヲ求ムヘシ
自家用酒製造者死亡若クハ失踪シタルトキハ相續人又ハ其ノ他ノ者ヨリ其ノ旨地
方長官ニ申告スヘシ

第五條 此ノ規則ニ依リ地方長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄市町村長 特別市制ヲ施行
區長、市制町村制ヲ施行セサル地方
ニ於テハ區戸長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ經由スヘシ

●混成酒税法

(明治二十九年三月二十七日法律第三十號)

第一條 此ノ税法ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 酒精ト他物品トヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 二 二種以上ノ飲料酒類ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ
- 三 一種又ハ二種以上ノ飲料酒類ト他ノ物品ヲ混和シテ一種ノ飲料酒類トナシタルモノ

四 飲料酒類ニ酒精若ハ燒酎ト水ヲ混和シタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ石ニ付金六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第三條 第一條第四號ノ混成酒ヲ製造スルモ別種ノ飲料トナラス單ニ酒造稅法ノ酒

類ノ造石數ヲ增加スルニ止ルモノハ其増加石數ノミニ課稅ス

第四條 造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トス但シ廢業シタル者ハ即納トス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ同三十一日限

一月一日ヨリ六月十三日迄査定済石數ニ係ル稅額

第二期 翌年一月一日ヨリ同三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定済石數ニ係ル稅額

第五條 混成酒ヲ製造スルモノハ收稅官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタルモノハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 酒稅法第二條第七條第八條第十一條第十二條第十八條第十九條第二十二條

第二項第二十四條第二十五條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二

條第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス

附則

第八條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七嶋ニハ當分此ノ税法ヲ施行セズ

●混成酒税法施行規則

(明治廿九年八月十七日勅令第二百八十八號)

第一條 混成酒ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日迄ニ其ノ翌年中ニ製造スヘキ混

成酒ノ酒類石數及製造方法ヲ地方長官ニ申告スヘシ
 前項申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ
 第二條 地方長官ハ混成酒製造高ノ多少ニ從ヒ毎月一回以上時日ヲ定メ豫メ其ノ期
 間ノ混成酒製造高ヲ申告セシムルヘシ
 第三條 混成酒ノ製造用ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ他ヨリ其ノ製造場ニ移入スル
 モソハ移入ノ時、其ノ製造場ニ在ルモノハ原料品ト定メタルトキ地方長官ニ申告
 スヘシ
 前項ノ申告アリタルトキハ收稅官吏ハ其ノ酒精又ハ飲料酒類ヲ檢査シ必要ト認ム
 ヘキ場合ニ封緘ヲ附スルコトヲ得ル
 第四條 混成酒ノ原料ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ前條ノ檢査ヲ受ケ且收稅官吏ノ
 承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第五條 混成酒ヲ製造スル者酒造稅法ヲ酒類其ノ他ハ飲料酒類ヲ製造場ニ移入シタ
 ルトキハ混成酒製造用ニアラサルモ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ
 第六條 酒造稅法施行規則第一條第二條第三條第四條第六條第七條第八條第十九條
 第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第二項第四十三條ノ規程
 ハ混成酒ヲ製造スル者ニモ適用スル

第七條 明治二十九年十月一日以降同年十二月三十一日迄ノ間ニ混成酒ヲ製造セム
 トスル者ハ第一條ノ規定ニ準シ同年九月三十日迄ニ地方長官ニ申告スヘシ

●沖繩縣酒類出港稅則改正 (明治廿九年三月廿七日法律第卅一號)

明治二十九年勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則左ノ通改正ス
 第一條 沖繩縣ニ於テ製造シテ他ノ地方ニ輸出スル酒類ニハ出港稅ヲ課ス其酒類及
 稅率左ノ如シ

- 第一種 清酒、白酒、味淋 一石ニ付金六圓
- 第二種 濁酒 一石ニ付金五圓
- 第三種 燒酎、酒精 一石ニ付金七圓

附則
 此法律ハ明治二十九年十月二日ヨリ施行ス

●明治十九年勅令第六十七號稅率改正 (明治二十九年三月二十七日法律第三十二號)

明治十九年勅令第六十二號中酒類及稅率ヲ左ノ通改正ス
 第二種 清酒、白酒、味淋 一石ニ付金七圓

沖繩縣酒類出港稅則改正 ○明治十九年勅令第六十二號稅率改正 三百卅五

第二種 濁酒

一石ニ付金六圓

第三種 燒酎、酒精

一石ニ付金八圓

附則

此法律ヲ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

●營業税法 (明治二十九年三月二十七日法律第三十三號)

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 倉庫業
- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船渠業
- 一 船舶碇繋場業
- 一 貨物陸揚場業
- 一 土木請負業
- 一 勞力請負業
- 一 印刷業
- 一 寫眞業
- 一 席貸業
- 一 旅人宿業
- 一 料理店業

一 公ナル周旋業

一代辨業

一 仲立業

一 仲買業

第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸

賣又ハ小賣ニ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス

一 一定ノ製造場ナリ職工ヲ使用スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ品物ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏

卵牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五 動植物其ノ他普通ニ物品ヲ稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 ノ營業者其ノ製造場區域ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ

普通三物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ
 資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス
 第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品
 ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ
 瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染
 物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス
 資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營
 業稅ヲ課セス
 第五條 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運
 送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス
 第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫
 業トシテ營業稅ヲ課ス
 第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請
 負業、勞力請負業ニシテ請負金額壹箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス
 第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業
 トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃貸額五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス
 第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スル者ト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セ

シメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ
 課セス
 第十條 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ
 販賣スルモノトス
 第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス
 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
 二 自己ノ採掘又ハ採取シタル礦物ノ販賣
 三 度量衡ノ製作修覆販賣
 第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス
 業 目 課稅標準 稅 率
 物品販賣業 賣上金額 卸賣ハ萬分ノ五
 從業者 小賣ハ萬分ノ十五
 價格千分ノ四十
 銀行業、保險業、金錢 資本金額 一八每三金一圓
 貸付業、物品貸付業 從業者 價格千分ノ四十
 資本金額 一八每三金一圓
 倉庫業 從業者 價格千分ノ二十
 價額千分ノ二十
 一人每三金一圓

製造業、印刷業、寫真業
 資本金額 千分ハ一半
 建物賃賃 價格千分ノ四十
 從業者 一人毎ニ金一圓
 從業者ノ内職工勞役者一人毎ニ金三十錢
 資本金額 千分ノ二半

運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繋場業、貨物陸揚場業、土木請負業、勞力請負業
 從業者 一人毎ニ金一圓
 請負金額 千分ノ二半
 從業者 一人毎ニ金一圓
 建物賃賃 千分ノ六十
 從業者 一人毎ニ金一圓
 價格千分ノ四十

旅人宿業
 從業者 一人毎ニ金一圓
 建物賃賃 一人毎ニ金一圓
 從業者 百圓毎ニ金一圓
 一人毎ニ金一圓

公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業
 報償金額 從業者 一人毎ニ金一圓

第十三條 此ノ税法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ

營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ届出ヘシ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノニ共通シテ使用スルトキハ其ノ一二就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス
 前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舖其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル

二 資本金及建物賃賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額豫算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 營業者ノ申告シタル資本金額ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其ノ殘額ノ二十倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 建物賃賃價格ハ店舖其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ均ラス土地建物ノ管借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃貸價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物賃貸價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各價ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ賃貸價額ヲ定ム無債ノ借家ニ付テモ亦同シ
營業者ノ申告セタル賃貸價額ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項算ノ定方法ニ依リ其ノ賃貸價額ヲ定ムルコトヲ得

第十九條 名義ノ何ナルヲ問ハス總テ營業ニ従事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算シ但シ營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月十一日ヲ以納期トス但シ廢業スルトキ未納ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵ス

左ニ掲グル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶定繋場業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業者ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期限内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 政府ニ於テ營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格ヲ算定シタルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ其審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條 第十八條第三項ノ建物賃貸價格算定ニ付異議ノ申立アリタルトキハ評價人ヲ定メ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

評價人ハ四人トシ二人ハ政府ヨリ之ヲ命シ二人ハ土地建物所在市町村長之ヲ撰定ス但シ費用ハ本人ノ負擔トス

前項市町村長ノ職務ハ特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セ

サル地方ニ於テハ戸長、沖繩縣ニ於テハ役所長之ヲ行フ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得

一 課税ノ標準タル資本金額、賣上金額、請負金額、報償金額又ハ建物賃賃額半額以上ヲ減シタルトキ

二 課税ノ標準タル從業者ノ人員届出人員三分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業税ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄税金ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課税標準ヲ査覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ税金ヲ減額スルコトヲ得

一 課税ノ標準タル賣上金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃賃額ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ

二 課税ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其割合ヲ以テ税金ヲ徴收ス
第三十二條 第一條ニ掲グル營業者ノ貨物ノ仕入、賣上、受人、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ其ノ脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弁ス

第三十六條 府縣ハ此ノ税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得此ノ附加税ノ外府縣税又ハ地方税ニ課スルコトヲ得ス

附則

第三十七條 此ノ税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニアラス

明治二十九年年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ニ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ税法ノ營業税ハ明治三十年ニ依リ年額四分ノ三ヲ徴收ス

第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

●營業税法施行規則

(明治二十九年七月二十日勅令第二百六十九號)

第一條 營業税法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ全法第二條以下ノ規程ニ依リ營業稅ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ地方長官ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ
左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ地方長官ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業稅ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業稅ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類並ニ各店舗其ノ他ノ營業稅毎ニ區分シテ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業ノ稅率等ニキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業毎ニ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業税法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業稅ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業稅ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル登記濟出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其ノ價格ハ會社契約ニ定メタル價額ニ依ル但シ會社契約ニ其ノ勞力ノ價額ヲ定メサルトキハ各社員損益共分ノ割合ニ從ヒ之ヲ算定スルモノトス

第八條 一個人ニ於テ課税標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トキ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス
前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課税標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 營業税法第十七條ニ依リ控除スヘキ營業費ハ營業上直接ニ必要ト認ムヘキ費用ニ就テ算定スヘシ

第十一條 營業税法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業税法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其ノ賃貸價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業税法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃貸價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ當時タルト臨時タルトキ問ハス總テ直接ニ營業ニ従事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主

ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セズ

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ雙方ニ届出ヘシ

第十五條 營業税法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第十六條 地方長官ハ營業者ノ申告ヲ相當ト認ムルトキハ營業税法第十二條ノ稅率ニ從ヒ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

營業者ノ申告ナキトキハ地方長官ハ營業税法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課税標準ヲ計算シ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

第十七條 地方長官營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價額ヲ算定シタルトキハ其ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業税法第二十七條ノ期限ニ地方長官ニ申出ヘシ

第十九條 地方長官ハ資本金額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ更ニ營業者ノ提出シ

タル理由書ニ據リ當初ノ算定ヲ再査シ其ノ訂正スヘキハ之ヲ訂正シ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十條 地方長官ハ建物貸賃價額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ土地建物所在地ノ市町村ニ通知シ評價人ヲ撰定セシメ同時ニ政府ヨリ命スヘキ評價人ヲ撰定スヘシ

第二十一條 評價人ハ滿二十歳以上ノ男子ニ就テ撰定スヘシ但シ異議申立人ノ親族其ノ他當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ之ヲ撰定スルコトヲ得ス

土地建物ノ敷市町村ニ在リテ其ノ貸賃價額ヲ合算スル場合ニ於テハ其ノ所在市町村毎ニ評價人ヲ撰定スヘシ

第二十二條 評價人定リタルトキハ地方長官ハ場所期日ヲ定メ評價人ヲ會合シ其ノ評價人ヲ爲サシムヘシ
評價人評價ヲ終リタルトキハ直ニ評價書ヲ作り評價金額並ニ其ノ理由ヲ記載シ地方長官ニ届出ヘシ

地方長官ハ前項評價書ニ依リ建物貸賃價額ヲ定メ其ノ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十三條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニ於テ營業者數箇ノ店舗

其ノ他ノ營業場ヲ有シ其ノ管轄地方ヲ異ニスルトキハ其ノ資本金額建物貸賃價額ノ算定審査ニ關スル事務ハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ地方長官之ヲ爲スヘシ但シ建物貸賃價額ノ評價ニ關スル事務ハ之ヲ土地建物所在地ノ地方長官ニ囑託スヘシ

第二十四條 營業稅法第二十八條第二項但書ニヨリ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ評價人ノ手當及評價人集會ノ費用トス

第二十五條 前條評價人ノ手當ハ毎事件一人金一圓五十錢トシ評價人集會ノ費用ハ會場借料並ニ會場雜費ニ限ル

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申立アリタルトキハ地方長官ハ課稅標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課稅標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ地方長官ニ届出ヘシ

第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ地方長官ノ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ改當スル營業者ハ同法第十三條ノ屆書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其ノ開業年月日ヲ届出ヘシ

●煙草稅則改正

(明治二十九年三月二十七日法律第三十四號)

明治二十一年勅令第二十號煙草稅則中第六條及第七條ヲ删除シ第二十三條ヲ左ノ通改正ス

營業免許ヲ受クテシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者亦同シ

附則

此法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

●葉煙草專賣法

(明治二十九年三月二十七日法律第三十五號)

第一條 政府ハ葉煙草ノ專賣權ヲ有ス

第二條 葉煙草ハ政府之ヲ收納シ總テ定價ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ

何人ヲ問ハス政府ヨリ買受ケタル葉煙草ニ非サレハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス

第三條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ乾燥ノ後總テ其ノ葉煙草ヲ政府ニ納付スヘシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス

第四條 葉煙草ヲ耕作シタル者葉煙草ヲ納付スルトキハ政府ハ之ニ對シ賠償金ヲ交付スヘシ

葉煙草ノ賠償金ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ其ノ品位等級ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム若此ノ鑑定ニ不服アルトキハ更ニ鑑定ヲ求ムルコトヲ得

第五條 葉煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年四月卅日迄ニ政府ニ其ノ段別ヲ届出ヘシ

第六條 葉煙草ハ政府ニ届出テタル土地ニ非サレハ耕作スルコトヲ得ス

第七條 葉煙草耕作者ノ變更シタルトキハ其ノ耕作ヲ繼承シタル者ヨリ其ノ旨政府ニ届出ヘシ

第八條 煙草製造ヲ業トスル者及葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ葉煙草ヲ耕作スルコトヲ得ス

第九條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草收穫ノ前及葉煙草乾燥ヲ了リタル後政府ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後翌年三月三十一日迄ニ政府ノ指定シタル場所ニ之ヲ納付スヘシ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セムトスルト

キハ政府ハ認許ヲ受クヘシ

第十一條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ヲ買受クルコトヲ得ス又自己ノ耕作セサル

葉煙草ヲ貯藏スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケ標本トシテ買受クルハ此

限ニ在ラス

第十二條 輸出ニ供スル葉莖ハ政府ノ認可ヲ受クルトキハ之ヲ政府ニ納付セスシテ他ニ賣渡スコトヲ得ス

第十三條 前條ノ葉煙草ハ政府ノ保管ニ付スヘシ

第十四條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ其保管證ヲ以テ賣買スルコトヲ得

第十五條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ保管後一箇年内ニ輸出セサルトキハ政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘシ

第十六條 政府ニ於テ保管シタル葉煙草輸出ノ際之ヲ輸出者ニ交付スヘシ

第十七條 保管者ハ運搬ノ爲ニ生シタル費用ハ保管證所有者ノ負擔トス

第十八條 政府ハ何人ノ所屬ヲ問ハス葉煙草耕作地及貯藏所其ノ他所在ノ場所ヲ檢

査スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ當該官吏ハ葉煙草所在場所又ハ葉煙草ノ所在

ト認ムル場所ニ立入又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得其ノ運送中ニアルモノ

ハ其ノ所在ニ就キ之カ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ各地方便宜ノ地ニ葉煙草取扱所ヲ設ケテ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第二十條 耕作ノ届出チ爲サスシテ葉煙草ヲ耕作シタル者又ハ届出チナササル土地ニ葉煙草ヲ耕作シタル者ハ三圓以上卅圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ葉煙草ヲ沒收ス

第二十一條 葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡又ハ消費シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルト

キ何人ノ所有ヲ問ハス政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其賠償金ヲ交付スヘシ

第二十二條 葉煙草ヲ耕作スル者葉煙草買受ケ又ハ自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏シ又ハ政府ノ認許ヲ受ケスシテ翌年三月三十一日ヲ過キ葉莖ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキ其ノ收納及賠償金ノ交付ハ前條但書ヲ適用ス

第二十三條 葉莖耕作者變更ノトキ其ノ繼承ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 葉莖ノ收穫ヲ始ムル前又ハ葉莖ノ乾燥チ了リタル後之カ届出ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 政府ニ對シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 葉莖ノ檢査ニ際シ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之レニ支障ヲ加ヘタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ

用弁ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第二十八條 葉蓑ヲ耕作スル者ハ其ノ代理人、家族、同居者、雇人ニシテ其ノ業務ニ
 關シ本法ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコト
 ナ得ス

附則

第二十九條 本法ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス
 第三十條 遠隔ノ嶋嶼ニシテ内地ト一般ノ狀勢ヲ異ニスルモノアルキハ其ノ地方ニ
 對シ勅令ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得
 本法ヲ施行セサル地方ヨリ本法施行地ニ葉煙草ヲ輸入スルコトヲ得ス
 第三十一條 明治三十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙
 草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シ
 テハ仍明治三十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス
 第三十二條 本法施行ノ際煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ノ所持スル葉煙草ハ政府ニ
 納付スヘシ但シ納付ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●葉蓑專賣法施行細則

(大藏省令第六號)

第一條 葉煙草專賣法第五條ノ届出ヲ爲ス者ハ第一號ノ書式ニ準シタル書面ヲ所管
 葉煙草專賣所ニ差出スヘシ

第二條 枯葉蝕損其他不熟葉等ニシテ政府ニ納付スルコト能ハサルモノハ當該官吏
 ノ承認ヲ受ケ廢棄ノ處分ヲ爲スヘシ

第三條 葉煙草耕作者生葉ノ收穫ヲ了シタルトキハ直チニ其幹根ヲ拔除スヘシ

第四條 葉煙草ハ總テ左ノ葉分ニ據リ調理スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ當該官吏ノ
 承認ヲ得テ葉分ヲ増加スルコトヲ得

- 一 土葉 最下ニアル三四枚
- 二 中葉 土葉ノ上本葉マテ
- 三 本葉 中葉ノ上天葉マテ
- 四 天葉 最上ニアル三四枚

屑葉等ニシテ前項ノ葉分ニ據リ難キモノハ雜葉トシテ之ヲ調理スヘシ

第五條 聯干ノモノハ各自同尺ノ繩ヲ用弁種類葉分毎ニ區分スヘシ

第六條 葉煙草ハ其種類及葉分ニ據リ區別シ其品類葉並同等ノモノヲ取揃ヘ成ルヘ
 シ一定ノ枚數ヲ以テ一把トシ輕量ノ莖、管、紙等ヲ以テ結束シ凡ソ六貫目ヲ以テ一
 包トシ每包ニ種類、葉分、產地、姓名ヲ標記シ第二號書式ノ納付書ヲ添ヘ所管葉煙
 草專賣所ニ納付スヘシ
 包裝ハ蓆、吳坐或ハ蓆ノ類ヲ用弁葉先ヲ内ニシ十字形ニ積重テ遠路ノ運搬ニ差支
 ナキ様堅固ニ結束スヘシ

第七條 左ニ掲クル如キ調理ノ不充分ナル葉煙草ハ耕作者ニ於テ相當ノ調理ヲ施シタル後ニアラサレハ納付スルコトヲ得ス

- 一 過度ノ濕氣ヲ含ムモノ
- 一 幹子付又ハ鍵付ト稱シ其幹ノ部分ヲ附著シアルモノ
- 一 種類、葉分、葉並、包裝ノ乱雜ナルモノ

第八條 葉煙草專賣法第十條ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ其旨所管葉煙草專賣所ニ申出テ認許ヲ受クヘシ但シ貯藏期限四箇月以上ニ渉ルモノハ葉煙草ノ種類葉分毎ニ量目ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

第九條 葉煙草耕作者葉煙草ヲ輸出ニ供セントスル時ハ第三號書式ノ書面ニ現品ヲ添ヘ所管葉煙草專賣所ニ差出スヘシ

第十條 前條ニ據リ葉煙草專賣所ニ保管シタル葉煙草ニ調理ヲ加ヘントスルトキハ調理ノ理由場所日時等ヲ詳記シタル書面ニ保管証ヲ添ヘ所管葉煙草專賣所ニ差出シ承認ヲ受クヘシ

第十一條 前條葉煙草ノ調理ヲ了シタルトキハ撰屑、葉莖等葉煙草ヨリ出テタル一切ノ屑ヲ葉煙草ト共ニ所管葉煙草專賣所ニ提供シ其處分ヲ受クヘシ

第十二條 保管葉煙草ヲ輸出セントスルトキハ其輸出港ヲ指定シテ所管葉煙草專賣所ニ申出テ廻送ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ葉煙草輸出港ニ到達シタルトキハ葉煙草專賣法第十七條ノ費用ヲ納付シテ保管証ヲ差出シ葉煙草ノ交付ヲ請フヘシ

第十三條 保管証ヲ毀損汚染シタル者ハ所管葉煙草專賣所ニ申出テ保管証ノ交換ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 保管証ヲ亡失シタル者ハ葉煙草ノ價格ニ相當スル金銭又ハ國債証券ヲ擔保トシテ提供シ又ハ葉煙草專賣所ニ於テ相當ト認ムル資産ヲ有スル者二名以上ノ保証人ヲ定メ損害ノ保証ヲ爲ストキハ保管葉煙草ノ交付ヲ爲スヘシ

第十五條 收穫ノ葉煙草若クハ認許ヲ受ケタル貯藏葉煙草ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ直チニ所管葉煙草專賣所ニ届出スヘシ

第十六條 葉煙草ノ賣渡ヲ請フモノハ葉煙草ノ名稱、品類、葉分、數量ヲ葉煙草專賣所ニ申出スヘシ

第十七條 葉煙草ハ包裝ノ儘賣渡シテナシ分割スルコトナシ但シ標本トシテ賣渡ヲ爲スモノハ此ノ限リニ在ラス

第十八條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ直チニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

第十九條 葉煙草ノ賣渡シテ受ケタルモノ葉煙草專賣所ノ指定スル金額又ハ之レニ相當スル國債証券ヲ擔保トスルトキハ代金ノ延納ヲ請フコトヲ得

第二十條 葉煙草ノ賣渡シテ受ケタル者賣渡シ契約ノ日ヨリ三日以内ニ現品ヲ引取

マサルトキハ相當ノ保管料ヲ徴收ス但シ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限リニアラズ

第一號書式

○葉煙草耕作届

一 苗床(實蒔)(買入苗)何歩 所在地何々

此植付見込株數何本

一 耕作地 何町(村)大字、字、地番、何段歩

此植付見込株數何本

何町(村)大字、字、地番、何段歩

此植付見込株數何本

計何段歩
備考 (接續地ハ一項合記スルモ妨ケナシ)

一 煙草ノ種名 何々

一 貯藏ノ場所 居室構内又ハ何々

右及御届候也

明治何年何月何日

住所

姓

名印

何葉煙草專賣所宛

第二號書式

○葉煙草納付書

一 何種何葉(葉分毎ノ名稱ヲ云フ)

何包量目何貫目

右納付候也

年月日

住所

姓

名印 代理人ヲ以テスル者ハ其姓名ヲモ記載スヘシ

何葉煙草專賣所宛

第三號書式

○輸出葉煙草保管願

一 何種何葉(葉分毎ノ名稱ヲ云フ)

何包此量目何貫目

右輸出ニ供シ度候間御保管相成度此段相願候也

年月日

住所

姓

名印

何葉煙草專賣所宛

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル煙草製造業者煙草稅現金收納ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

煙草製造業者煙草稅現金ニ關スル件

明治三十年三月三十日

內閣總理大臣兼
大藏大臣

伯爵 松方正義

法律第四十號

第一條 明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第三十一條但シ書ノ場合ニ於テ
煙草製造業者ハ煙草製造高ヲ豫定シ之ニ貼用スヘキ印紙ニ相當スル税金ヲ納付ス
ルコトヲ得其ノ製造高及定價計算方法ハ命令ノ定ムル依ル

前項ノ納金額ハ政府ノ認許ヲ得テ之ヲ分納スルコトヲ得但明治三十一年六月三十
日ヲ過クルコトヲ得ス

前二項ニ依レル納稅濟ノ煙草ニ對シテハ明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適
用セス

附則

第二條 此法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

法律第四十號參照

●法律第三十五號葉煙草專賣法

(明治廿九年三月廿八日官報)抄錄

第三十一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙
草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シ

テハ仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月卅日

內閣總理大臣 伯爵 松方正義
拓殖務大臣 子爵 高嶋綱之助
內務大臣 伯爵 樺山資紀

●傳染病豫防法

(明治三十年三月卅日法律第三十六號)

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私
猩紅熱、實布埒利亞(格魯布ヲ含ム)及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルト
キハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對
シ此ノ法律ノ全部若クハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若クハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消
毒方法ヲ指示シ且ツ直ニ患者若ハ死休所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢

疫委員又ハ豫防委員ニ届出スヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

當該吏員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近隣ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニモ清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家及其ノ近隣ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ズ

第十條 傳染病毒ニ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受ケル

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施行シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十三條 死體チ既ニ埋葬シ若ハク埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主首長又ハ代理人ニ告知シ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシ

ムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニ在ス豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出スル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防必要人員雇入レ及器具藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乘客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ船舶汽車中ニ乗込マシムルヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲メ特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 傳染病ノ有無ヲ檢診セシムルコト

二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷スルコト

三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲メ人民ノ群集スルコトヲ制限シ若クハ禁止スルコト

四 古着、襪襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其物件ヲ廢棄スルコト

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

六 船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命シ又ハ汽車船舶若ハ多數人民ノ集合スル場所ニ豫防上必要ノ設備ヲナサシムルコト

七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及、上水、下水、溝渠、芥溜、圃圃ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必用ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

- 一 豫防委員ニ關スル諸費
 - 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
 - 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
 - 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
 - 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當療治料其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料
 - 六 第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費
 - 七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費
- 其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
- 一 檢疫委員ニ關スル諸費

二 船舶又ハ漁車ノ檢疫ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲自活シ能ハサルモノ生活費

其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシノ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分ノ一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セヌ又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラヌト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル
規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於
テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必
要ノ期限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ
施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ
指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス
第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依
リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令
シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届
出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第一項第十二條ニ違背シヌ
ル者第五條第二項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮斷ヲ犯シタル
者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメ若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣
ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制
ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依
ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五
條ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律ノ施行日ヨリ廢
止ス

內務省令第十一號
傳染病豫防法施行規則左ノ通定ム
明治三十年五月一日
內務大臣 伯爵 樺山資紀

傳染病豫防法施行規則

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病

豫防法第一條ニ掲クル八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ内務大臣ニ申報スヘシ但前段ノ場合ニ於テハ隣接若クハ船舶漁車交通ノ地ノ警視廳府縣廳最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ

第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區長以下之ニ倣フ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ倣フ)又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所嶋廳ニ報告シ郡長市長嶋司又ハ區長ハ府縣廳ニ報告スヘシ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ報告スヘシ前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得

第四條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員第二條ニ依リ傳染病ノ届出又ハ通報ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ家ニ臨ミ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長

又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第五條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員嶋廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條又ハ第十九條第二ニ依リ左ノ日時間交通ヲ遮斷スルコトヲ得但第十九條第二ニ依リ交通ヲ遮斷スルハ特ニ府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ命アル場合ニ限ル

虎列刺
赤痢

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿五日間
發疹瘰扶私

患者又ハ死體アル間及入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿七日間
「ペスト」

前項ニ場合ニ於テ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示
傳染病豫防法施行規則
二百七十三

ヲ受ケテ交通遮斷ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戸長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ

一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ
二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌セントスルトキ

三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セントスルトキ

第八條 傳染病豫防法第九條第十條及第十二條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員嶋廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其事務ニ從事スヘシ
第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示スヘキ證票ハ左ノ如シ

凡三寸

木札 表凡
又ハ厚紙 面一

傳染病豫防吏員ノ證

裏 面

官廳公署印

第十條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條

第一ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ清潔方法消毒方法等ノ施行ヲ命シタルトキハ第四條ノ規程ヲ準用ス

第十二條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥價ヲ徴收スルコトヲ得其ノ金額ハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二十六條ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員嶋廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市町村ハ必要ナル人夫器具藥品等ヲ供給シ又ハ其費用ヲ支出スヘシ

第十四條 府縣知事ハ衛生組合ヲシテ消毒器具藥品等ヲ設備セシムルコトヲ得

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條(第三項但書ノ場合ヲ除ク)及第十九條ノ地方長官ノ職務其ノ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ
東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外
 沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム
 第十七條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府縣知
 事之ヲ定ム
 嶋地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣事ハ別段ノ規
 程ヲ設クルコトヲ得

內務省令第十三號

傳染病豫防法第六條ニ依リ清潔方法消毒方法左ノ通定ム

明治三十年五月六日

第一章 清潔方法

內務大臣 伯爵 樺山資紀

第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ
 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其ノ他病毒汚染ノ疑アル場所
 ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ
 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除ケ燒却スヘシ
 三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ
 消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸

浚ヲ爲スヘシ

四 傳染病豫防法第五條第二項ノ場合ニ於テハ前各號ヲ準用スヘシ
 第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシト
 セス必要ノ場合ニハ消毒藥(生石灰末若クハ石灰)ヲ投シタル後浚渠スヘシ
 第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠浚渠ヲ爲
 ス場合ニ於テハ濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス
 第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様
 一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス
 一 燒却
 二 蒸氣消毒
 三 煮沸消毒
 四 藥物消毒
 第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ
 一 傳染病患者若クハ死體ニ用ヒタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具等ニシ
 テ甚シク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ

二 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物等

第七條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、麻布、毛織物類

二 硝子器、陶器、磁器其ノ他鑲製若クハ木製品等ニシテ蒸熱ニ堪フルモノ

第八條 蒸氣消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品、護謨附品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸氣消毒ヲ避クヘシ

二 被服類ニ蒸氣消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣囊中ヲ檢索シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ蒸氣消毒ヲ避クヘシ

三 蒸氣消毒ハ流通蒸氣ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏

百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸氣消毒ニ適スルモノニ同シ

煮沸消毒ハ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ

第十條 藥物消毒ニ供ス藥劑並其ノ用沸ハ左ノ如シ

一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水四十九分

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ

定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ諸件ニ注意スヘシ

一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ

二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ

三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用ヒ十二時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

二 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十分

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フヘシ

昇汞水ハ猛毒ニシテ無臭ナルカ爲メ危險ノ速キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防カン爲メ凡十萬分一ノ「フロキシ」ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラ

ス

昇汞水ハ陶器、硝子器又ハ木製器具ノ消毒ニ用フヘシ飲食器、玩具、疊敷物ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘ

カラス

傳染病法第六條ニ依リ清潔方法消毒方法ノ件

二百七十九

- 三 生石灰(少量)水ヲ灌ケハ熟チ發シテ崩壊スルモノ) 生石灰末(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ) 生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、溝渠、芥溜、床下等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十分一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ溝渠、芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニ在ラハ其ノ全面ニ撒布スヘシ
- 石灰乳(十倍) 生石灰一分 水九分 石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其用量生石灰末ノ五倍トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス
- 普通石灰ヲ生石灰末石灰乳ニ代用スル場合ニハ倍量ヲ用フヘシ
- 木灰ハ生石灰石灰等ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者瀉物赤痢病患者腸窒扶私病患者ノ排泄物ノ消毒ニ代用スルコトヲ得其ノ用量ハ吐瀉物排泄物ノ五分一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物排泄物ノ量トス但石灰灰燼灰ハ木灰ト同一ノ効ナシトス
- 四 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分 水九十五分

第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

- 第一 患者 傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ場合ニ依リテハ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ケナシ
- 第二 死體 傳染病ノ死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其被服ニ昇汞水若ハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞水若ハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰若ハ木灰ヲ以テ填ツヘシ
- 第三 看病人、病家ノ家人其ノ他病毒ニ觸接シタル者 看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病毒ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ
- 第四 患者、死體等ノ運搬器 傳染病ノ患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ
- 第五 便所、芥溜、溝渠等 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ濺キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ

傳染病法第六條ニ依リ清潔方法消毒方法ノ件

二百八十二

消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得
病毒ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ消毒スヘシ
病毒ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ其ノ塵芥ハ燒却ス
ヘシ

第六 衣服器具敷物等
病毒ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌クヘシ

傳染病患者ノ著用セル衣類臥具並其ノ病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接
シタル家人ノ衣類其ノ他病毒汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法
ヲ施行スヘシ

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ曹達石鹼(毛皮ニハ避クヘシ)ヲ以テ洗ヒ又ハ
石炭酸水ヲ以テ拭淨シ若クハ之ヲ撒布スヘシ

第五條ニ掲クル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大
氣中ニテ乾燥セシムヘシ

第七 患者ノ居室

石炭酸水若クハ昇汞水ヲ以テ室内各部ヲ拭淨スヘシ消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ
流通ヲ長クシ乾燥セシムルヲ要ス

第八 瀛車

傳染病患者若クハ死體アリタル瀛車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐
瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置スヘシ

車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ其ノ他ノ場
所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布擦拭等適宜處置スヘシ

船底水ニハ其ノ容量ニ百分一ノ生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後汲出サシ
ムヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月廿六日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵 松方正義

●國稅徵收法

第一章 總則

(明治三十年三月廿六日法律第二十一號)

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此法律ニ依ル
第二條 國稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納税人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定力ノ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正証書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限リトシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス。

第四條 納税人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納税人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ。

納税人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルモ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス。

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及ヒ勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス。
前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ。

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納税人ニ對シ其ノ納金額納期日及ヒ納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ。
第七條 納税人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲メ時日ヲ要スルトキ

ハ其間稅金ノ徵收ヲ爲サザルコトアルヘシ。

第八條 市町村ハ避クヘカラザル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事項ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得。

第三章 滯納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサルモノアルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ此場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス。

第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手数料及稅金ヲ完納セサルトキハ其ノ財産ヲ差押フヘシ。

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ証標ヲ示スヘシ。

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム。

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ハラヌ其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ。

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヘキ爲シタル場合ニ於テ第三者其財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前迄ニ所有者タルノ證憑ヲ

具ハテ收稅官吏ニ申出スヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者贈産ノ差押ヘテ免ルル爲メ故意ニ其財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及ヒ其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
 - 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必用ナル一箇月間ノ食料及薪炭
 - 三 實印及其他職業ニ必用ナル印
 - 四 祭祀禮拜ニ必要ト認ムル物及石碑、墓地
 - 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記、書付類
 - 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
 - 七 勳章其他名譽ノ章票
 - 八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上書籍器具
 - 九 發明又ハ著作ニ係ル者ニシテ未タ公ニセサルモノ
- 第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供シタルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サザルモノトス
- 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具、及材料

第十八條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲メニ執行ヲ妨ケラレルコトナシ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲナストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣開カシタ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若クハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ証人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨、地金銀、有價証券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印シテ其地ノ

市町村長(市町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長)ニ保管セシムヘシ

前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲナスニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ其管ヲ滯納者又ハ

第三者ニ命スルコトヲ得

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ
債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收稅官吏ニ對シテ滞納處分費及稅金額ヲ限ト
シ自己ノ債務ヲ支拂ノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滞納者ニ對シテ爲シ
タル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買賣望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價額ニ達セサルトキハ其ノ見積
價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ
以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接
トヲ問ハス其ノ賣却物件買受シル事ヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ督促手数料、財産ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、
通信費及訴訟費用トス

滞納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徵收ス
滞納處分費ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押タル通貨ハ處分費及ヒ稅金ニ充テ仍殘餘ア
ルトキハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件買入書入ト爲シタルモノナルトキハ代金ヨリ先ツ處分費及稅金ヲ
控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツル迄ヲ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還
付スヘシ但シ第三條ニ掲ケタル買入書入ノ物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ滞納
處分費ヲ徵シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツルマテヲ債主ニ交付シ次ニ稅金ヲ控除シ仍
殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滞納處分費
及稅金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス
名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不
明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモ
ノト看做ス

第三十一條 直接國稅滞納者ノ納稅義務ハ滞納處分ノ結了ヲ以テ終ル滞納處分ノ執
行ヲ止メタルトキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滞納處分結了スルモ滞納處分費及稅金ノ完納ニ至ラサルトキハ
納期限後一ケ年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徵收ス滞納處分ノ執行ヲ止メタルトキ又同

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
 差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ
 情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
 前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
 沖繩縣及東京府管内小笠原嶋伊豆七嶋ニハ當分ノ施行セス
 市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス
 北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス
 第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同廿二年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

法律第二十一號參照

明治二十三年法律第四號ハ北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徵收ノ件ナリ

◎國稅徵收法施行規則

(勅令第二百二十一號)

朕國稅徵收法規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年六月廿二日

大藏大臣 伯爵 松方正義

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セントスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ
 第二條 各市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏其ノ金額ヲ調査シ之ヲ市町村ニ通知スヘシ
 市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ
 第三條 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ税金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

- 第四條 市町村ニ於テ税金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ納税人ニ交付スヘシ
- 第五條 市町村ノ領收シタル税金ハ送付書ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ送付スヘシ
- 第六條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ遲滞ナク漸次之ヲ金庫ニ送付シ遅クトモ納期後三日ヲ過クルコトナカルヘシ
- 第七條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申出ヘシ
- 第八條 市町村ハ納期内ニ税金ノ徵收了ラサルモノアルトキハ納期後五日以内ニ其ノ滯納者ノ住所氏名及滯納ノ金額ヲ收税官吏ニ報告スヘシ
- 第九條 納税人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ依リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ納税人タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ左ニ掲クルモノハ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但シ納期ニ到リ納稅ニ妨ケナシト認ムルモノハ此限リニ在ラス
 - 一 納稅告知書ヲ發シタル諸稅
 - 二 造石數査定濟ノ酒並醬油ノ造石稅
 - 三 當該年分ノ家用酒製造稅
- 第十條 國稅ノ滯納ニ依リ其ノ滯納處分ヲ執行スルニ際シ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスル場合ニハ收税官吏ハ滯納處分費滯納稅金ト共ニ之ヲ

徵收スヘシ

- 前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ滯納者ニ告知スヘシ
- 第十一條 納税人他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ納税人タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收税官吏ハ第三十八條第三十九條第四十條ニ準シテ其ノ税金ノ交付ヲ求ムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ納税人ニ告知スヘシ
- 第十二條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收税官吏ハ滯納者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ
- 督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金五錢ヲ徵收ス
- 第十三條 收税官吏滯納者ノ財産差押ヲ爲ストキハ滯納處分費及税金ニ充ツル金額ヲ限度トシ徵收ニ便利ナリト認ムル財産ヲ差押フヘシ
- 第十四條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收税官吏ハ滯納處分費及稅金額等ヲ示シ之ヲ其債權者ニ通知スヘシ
- 第十五條 國稅徵收法第三條ニ依リ國稅ノ徵收ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前條ノ

通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添付シテ其ノ事實ヲ證明スヘシ

前項ノ場合ニ於テ提出スヘキ公正證書ハ官吏又ハ公吏其ノ職權ヲ以テ調製シタルモノトス

第十六條 債權ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ債務者ニ通知シ滯納處分費及税金ニ相當スル金額ヲ債務辨濟ノ時期ニ納付スルコトヲ求ムヘシ

第十七條 天然及法定ノ果實ヲ生スヘキ財産ヲ差押ヘタルトキ第三者ヨリ果實ノ引渡又ハ仕拂ヲ受クヘキ場合ニハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ第三者ニ通知スヘシ

第十八條 民事訴訟法ニ依レル假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ

第十九條 差押ヲヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第二十條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ付滯納處分ヲナシ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第二十一條 國稅徵收法第二十九條ニ依リ無限責任社員ニ就キ滯納處分ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ無限責任社員ノ一人ニ對シ又ハ同時若ハ順次ニ總員ニ對シ之ヲ執行スヘシ

第二十二條 數人共同ノ所有物件又ハ事業ニ係ル税金ノ滯納ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自ノ負擔ニ屬スル金額ニ就キ滯納處分ヲ爲スヘシ但シ數人連帶シテ納稅義務ヲ負擔スル場合ニハ前條ノ例ニ依ル

第二十三條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第二十四條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書ニ通テ調製シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ附記スヘシ

前項差押調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滯納者ノ住所氏名

二 差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並ニ所在地ヲ明ニスル事項

三 差押ノ事由

四 調書ヲ作リタル場所年月日

第二十五條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ登記ヲ受クヘシ

第二十六條 差押タル財産ヲ公賣セムトスルトキハ三日以上差押財産所在地ノ市役所區役所町村役場若ハ戶長役場ノ揭示場ニ公告スヘシ

前項公告ノ外仍必要ト認ムルトキハ便宜他ノ場所若ハ新聞紙ニ公告スヘシ
第二十七條 財産公賣ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並ニ所在地ヲ明ニスル事項
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保証金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十八條 國稅徵收法第二十五條ニ依リ隨意契約ヲ以テ差押財産ヲ賣却セムトスルトキハ見積價格ヲ示シテ豫メ其ノ旨ヲ滯納者ニ通知スヘシ

第二十九條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十條 差押財産ヲ公賣スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保証金又ハ契約保証金ヲ徵スヘシ

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其保証金ハ之ヲ滯納處分費ニ充テ仍殘餘アレハ政府ノ所得トス

第三十一條 公賣ハ差押財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ第二十八條ノ賣却ニ關シテモ適用ス

第三十二條 公賣ハ公告ノ翌日ヨリ少クモ十日ノ期間ヲ過キ之ヲ執行スヘシ但シ其物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スル恐レアルモノナルトキハ此ノ限りニ在ラス

第三十三條 差押財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ニ於テ其財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十四條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 差押財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキ又ハ見積價額以上ノ入札八ナキトキハ更ニ公告シテ公賣ヲナスコト有ルヘシ

第三十六條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限迄ニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ賣買ハ無效トシ收稅官吏公告シテ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第三十七條 前二條ニ依リ再度ノ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第三十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十八條 國稅ノ滯納者他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受テ其ノ財産ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキ又ハ差押フヘキ

財産アルモ滞納處分費及税金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ他ノ公課ニ係ル滞納處分ヲ執行スル官廳又ハ公共團體ニ滞納處分費及税金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第三十九條 國稅ノ滞納者他ノ債務ノ爲メ強制執行ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ滞納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滞納處分費及税金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ滞納處分費及税金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十條 滞納者破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ滞納者タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ滞納處分ヲ執行スルトキハ收稅官吏ハ破産主任官又ハ清算人ニ滞納處分費及税金ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十一條 滞納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作リ之ヲ滞納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第四十二條 國稅徵收法第二十八條第二項ニ依リ債權者ニ交付スヘキ金額ハ計算書ヲ滞納者ニ交付シタル日ヨリ五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ

第四十三條 滞納處分ニ關スル書類ノ送達ハ使丁又ハ書留郵便ヲ以テスヘシ

第四十四條 國稅徵收法第三十條第二項ノ公告ハ名宛人ノ住所又ハ事務所所在地ノ市役所區役所町村役場若ハ戸長役場ノ揭示場ニ三日以上揭示シ仍必要アリト認ムルトキハ新聞紙ニ公告スヘシ

附則

第四十五條 市制町村制ヲ施行セザル地方(稅務所所在地ヲ除ク)ノ戸長ハ稅務所收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅(酒製造石稅ヲ除ク)ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第四十六條 北海道水產稅ハ水產物營業人組合ニ於テ徵收シ之ヲ金庫ニ送付スヘシ
第四十七條 前二條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戸長若ハ水產物營業人組合ハ本則中ニ規定セル市町村內ノ例ニ準シ之ヲ稅務署收稅官吏ニ報告スヘシ

種牡馬檢査法

(法律第十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種牡馬檢査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十四日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
農商務大臣 子爵 榎本武揚

○種牡馬検査法

- 第一條 牡馬ハ此ノ法律ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス
- 第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ
- 第三條 證明書ノ效力ハ滿一箇年トス
前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認めタルトキハ證明ノ効力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス
- 第六條 學術研究ノ爲牡馬ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトアルヘシ
- 第七條 検査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ効力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 種牡馬検査ノ標準及方法検査委員ノ組織其ノ他此ノ法律施行ノ爲必要ノ規

程ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

- 第九條 此ノ法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノトス
 - 第十條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
- 農商務省令第四號
種牡馬検査法施行細則左ノ通相定ム

明治三十年五月十日

農商務大臣 伯爵 大隈重信

○種牡馬検査法施行細則

- 第一條 種牡馬ノ検査ヲ受ケントスル者ハ地方長官ニ願出ヘシ
- 第二條 種牡馬ノ検査ハ地方長官豫メ其期日ヲ告示シ二名以上ノ検査委員之ヲ行フ検査委員ハ府縣官吏、獸醫又ハ産馬業ニ經驗アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ス
- 第三條 種牡馬ノ資格標準ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 一 年齢滿四歳以上
 - 二 體尺四尺五寸以上
 - 三 強壯ニシテ骨格及性質善良ナルモノ
 - 四 惡癖又ハ遺染病ナキモノ

地方ノ狀況ニ依リ第一號第二號ノ制限ヲ適用シ難キトキ若クハ前數號ノ外尙ホ必要ト認ムル事項アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ適宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四條 地方長官ハ前條ノ資格標準ニ合格シタル種牡馬ニハ種牡馬検査法第二條ニ依リ其牡馬ノ左臀、鬣下若クハ蹄壁ニ烙印シ其所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ

第五條 地方長官ハ證明書ヲ得タル種牡馬ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ依リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ種牡馬検査法第三條ニ依リ其證明ノ効力ヲ停止シ若クハ之ヲ取消スヘシ

第六條 證明書其効力ヲ失ヒ若クハ取消サレタルトキハ該證明書ノ所有者ハ三十日以内ニ之ヲ地方長官ニ返納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ第四條ノ證印ヲ烙消スヘシ

第七條 種牡馬ノ種付ヲ爲ストキハ其所有者又ハ管理人ハ證明書ヲ携帯スヘシ證明書ハ當該官吏又ハ牝馬所有者若クハ管理人ヨリ其閱覽ヲ請求スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 證明書ヲ毀損亡失シ若クハ證明書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其書換若クハ再渡ヲ地方長官ニ願出ヘシ

第九條 種牡馬ノ所有者又ハ管理人ハ帳簿ヲ調製シ種付牝馬ノ種類、年齢、毛色、體

尺、特徴、種付年月日及其所有者又ハ管理人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十條 牝馬所有者又ハ管理人ニ於テ産駒ノ血統證書ヲ請求スルトキハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 種牡馬検査委員其検査ヲ終了シタルトキハ速ニ其成績ヲ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ前項ノ報告ニ依リ證明書ヲ下付シタルトキハ種牡馬表ヲ調製シ其種類、年齢、體尺、毛色及所有者ノ住所氏名ヲ管内ニ告示スヘシ

第十二條 地方長官ハ毎年一回以上主任官吏ヲシテ種牡馬ノ狀況、産駒ノ成績及第九條ノ帳簿ヲ検査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ其検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 地方長官ハ第十一條第二項ノ種牡馬表ヲ告示シタルトキ及第十二條第一項ノ検査ヲ行ヒタルトキハ其都度種牡馬表及検査ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 農商務大臣ハ臨時主任官吏ヲ派遣シ種牡馬検査ノ執行ヲ監督セシメ若クハ種牡馬ノ狀況ヲ監察セシムルコトアルヘシ

第十五條 第六條第一項第七條第八條第九條第十條及第十二條第二項ニ違背シタル者ハ壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十年四月六日

内閣總理大臣 伯爵 松方正
農商務大臣 伯爵 大隈信重

森林法

(法律第四十六號)

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其伐採ヲ停止シ伐

木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂壤崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 頽雪、墜石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
- 六 魚附ニ必要ナル箇所
- 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
- 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
- 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ
地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者並大林區署土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之レヲ主務

大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安森林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ

通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示シ若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セ

サル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徴收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルヲ得但シ御料林園有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得

損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受タル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ効力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得シテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシニ圖以上贓額二倍以下ノ罰金又十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

- 一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ
- 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
- 三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
- 四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ
- 五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ
- 六 林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ
- 七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ
- 八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ
- 九 差押ノ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上十五圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用弁ス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、桐其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅怠納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニヨリ造林ヲ命セラル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

生絲直輸出獎勵法

(法律第四十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル生系直輸出獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム

御名 御璽

明治三十年四月二十二日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長 伯爵 黑田清隆
農商務大臣 伯爵 大隈重信

生絲直輸出獎勵法

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミチ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ左ノ條件ヲ具備スル生系ヲ外國ニ直輸出シタル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ生系直輸出獎勵金ヲ下付ス

一 帝國内ニ於テ製造シタルモノナルコト

- 一 登録商標ヲ貼付シタルモノナルコト
- 一 勅令ヲ以テ定メラレタル検査規定ニ合格シタルモノ毎回五百斤以上ナルコト
- 第二條 奨励金ヲ受クヘキ生糸ノ等級及其ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 詐欺ノ所爲ヲ以テ生糸直輸出奨励金ヲ受ケタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ因得タル金額ハ之ヲ償還セシメ爾後生糸奨励金ヲ下付セス
- 前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ所斷ス
- 第四條 前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス
- 第五條 此ノ法律施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 附則
- 第六條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ明治三十六年三月三十一日マテ五箇年間之ヲ施行ス

○蚕種検査法

(法律第十號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル蠶種検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
農商務大臣 子爵 榎本武揚

○蠶種検査法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種及製糸用種ノ越年スルモノヲ謂フ
- 第二條 原種ハ框製ニスヘシ
- 第三條 蠶種ハ左ニ掲クル繭ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ス
 - 一 二蠶以上合同シテ作りタル繭
 - 二 繭層片薄ナル繭若ハ形狀ヲ失スルコト著シキ繭
 - 三 繭層薄弱ニシテ繭ノ全量百ニ對シ繭層ノ量春蠶ニ在リテハ八、夏秋蠶ニ在リテハ六ニ達セサルモノ
- 第四條 蠶種ハ原種ヨリ產生シタル繭ヲ用ヰルニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス
- 第五條 蠶種製造者ハ收繭後及産卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ繭蛾卵、製糸用種ニ在リテハ繭卵ノ検査ヲ受クヘシ
- 第六條 第三條ニ掲ケタル繭ハ收繭後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ
- 原種ノ掃殼蠶種ノ製造ニ供用シタル繭及原種ノ製造ニ供用シタル母蛾ハ産卵後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ
- 第七條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テハ検査合格ノ證印ナキ蠶種ヲ賣渡シ又ハ讓渡ス

コトヲ得ス

第八條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テ必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律施行地以外ニ於テ製造シタル製糸用種ノ買受又ハ譲受ヲ認許スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ卵ノ検査ヲ受ケシムヘシ

第九條 地方長官ハ蠶種検査員ヲシテ養蠶期中蠶種製造者ニ就キ掃立蟻量ノ多寡生育ノ状況及病蠶ノ有無ヲ視察セシムルコトヲ得

蠶種製造者ハ前項ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 蠶種検査員其ノ職務ヲ行フトキハ證券ヲ携帯スヘシ

第十一條 蠶種検査員ハ自己若ハ家族ノ製造スル蠶種ノ検査ヲナスコトヲ得ス

第十二條 蠶種検査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以内ヲ補助スルコトヲ得

北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第十三條 地方長官ハ土地ノ情况ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ施行セシムルコトヲ得

第十四條 第三條第四條第五條第七條及第八條第二項ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 此ノ法律中蠶種ノ製造及検査ニ關スル規程ハ自家用ノ蠶種ノミヲ製造スル者ニ適用セス

第十八條 學術研究ノ爲農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得蠶種ヲ製造スル者及其ノ製造シタル蠶種ニハ本法ヲ適用セス但シ賣渡スコトヲ得ス

第十九條 検査方法及此ノ法律施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第二十條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二條ノ規定ハ此ノ法律施行後一箇年間之ヲ適用セス

第二十一條 明治十九年農商務省令第九號蠶種検査規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

蠶種検査手数料ニ關スル件 (勅令第七十七號)

朕蠶種検査ノ手数料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年六月七日

農商務大臣 伯爵 大隈重信

第一條 蠶種検査法ニ據リ蠶種ノ検査ヲ施行スル道廳府縣ハ蠶種検査請求者ヨリ左

蠶種検査手数料ニ關スル件

ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 原種 一 蛾區ニ付 一 厘
- 二 製絲用種 一枚ニ付 一 錢五厘

第二條 前條ニ依リ徵收シタル手數料ハ府縣ノ收入トス但シ北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ收入トス

蠶種検査法施行細則 (農商務省令第八號)

明治三十年法律第十號蠶種検査法施行細則左ノ通相定ム

明治三十年六月二十四日

農商務大臣 伯爵 大隈 重信

蚕種検査法施行細則

第一條 蠶種製造者ハ毎年二月十五日迄ニ雛形第一號ニ據リ其ノ年ノ原種掃立蛾數及蠶種製造豫算額ヲ地方廳ニ届出ツヘシ

第二條 蠶種製造者ハ左ノ第一號ノ事項ヲ蠶種製造前ニ第二號ノ事項ヲ検査前ニ其ノ臺紙ニ明記スヘシ

- 一 表面ニ春夏秋ノ別及其名稱
- 表面又ハ裏面ニ製造者ノ住所氏名

二 製造年月日

第三條 蠶種製造者原紙ヲ製造セントスルトキハ一區ニ一母蛾ヲシテ産卵セシメ母

蛾ト其ノ産卵區トニ同一ノ符號ヲ附スヘシ

第四條 蠶種製造者夏秋蠶ヨリ産出シタル繭ヲ以テ蠶種ヲ製造セントスルトキハ其ノ年ノ初期ニ於テ掃立タル原紙ヨリ繼續飼育シタルモノニ限ル但シ初期掃立タル原紙掃殻ハ産卵後ノ検査ヲ經ル迄之ヲ保存スヘシ

第五條 蠶種検査法第五條ニ據リ検査ヲ受クヘキ蠶種ハ左ノ順序ニ據リ其ノ検査ヲ行フ

- 一 收購後ニ於テハ繭及其ノ原紙ノ掃殻
- 二 産卵後ニ於テハ蠶種及其ノ製造ニ供用シタル出殻繭
- 三 原種ニ在リテハ前二號ノ外尙其製造ニ供用シタル母蛾

第六條 前條第一號第二號ノ検査ハ蠶種製造者ニ就キ之ヲ行ヒ同條第三號及蠶種検査法第八條第二項ノ検査ハ蠶種検査所ニ於テ之ヲ行フ

第七條 蠶種製造者ハ第五條第一項ノ検査ヲ受クヘキ以前ニ於テ蠶種検査法第三條ニ該當スル繭ヲ除去シ其柁量ト種繭ノ柁量トヲ各別ニ量定シ置クヘシ

第八條 前條ニ據リ撰別シタル種繭ニシテ尙不完全ト認メタルトキハ蠶種検査員ハ再ヒ其ノ撰別ヲ命スルコトヲ得

第九條 蠶種検査員第五條第一號ノ検査ヲ行ヒ蠶種検査法第三條第四條ニ違背セスト

認めタルトキハ雛形第三號ノ蠶繭証明書ヲ付與スヘシ
検査ヲ經タル掃殻ニハ其ノ蠶紙ノ裏面ニ自己ノ檢印ヲ押捺スヘシ

第十條 蠶種検査員第五條第二號ノ検査ヲ行ヒ蠶種製造額出殻繭及種繭証明書ヲ照合シテ正當ト認めタルトキハ其ノ蠶種蠶紙ノ裏面ニ原種ニ在リテハ雛形第三號ノ原種用ノ印ヲ、製糸用種ニ在リテハ雛形第四號ノ製糸用種検査合格証印ヲ押捺スヘシ

第十一條 蠶種製造者一枚ノ製糸用蠶種ヲ截斷シテ賣渡シ若クハ讓渡サントスルトキハ検査前ニ於テ豫メ蠶紙ノ裏面ニ截斷スヘキ線ヲ區劃シ置クヘシ
前項ノ蠶種ニハ蠶紙ノ裏面毎區ニ検査合格証印ヲ押捺ス

第十二條 第五條第三號ノ検査ハ左ノ方法ニ據リ之ヲ行フ
一 蛾毎ニ小乳鉢ニ容レ蒸溜水少許ヲ加ヘテ能ク磨潰シ其ノ液ヲ顯微鏡ニ照シ微粒子ヲ發見シタルトキハ雛形第五號ノ有毒ノ印ヲ微粒子ヲ發見セサルトキハ雛形第六號ノ無毒印ヲ其ノ産卵區表面ノ空所ニ押捺シ其ノ蠶紙ニ雛形第七號ノ原種検査合格ノ証印ヲ押捺ス

前項ノ検査合格ハ証印ハ有毒卵ノ區ヲ除去シ若クハ除去セシメタル後之レヲ押捺スルモノトス

第十三條 蠶種検査法第八條第二項ノ検査ハ左ノ方法ニ據リ之ヲ行フ

蠶種一枚毎ニ其ノ全面ヨリ蠶卵凡ソ百粒ヲ取り之ヲ十等分シ其ノ一分毎ニ之ヲ小乳鉢ニ容レ苛性加里希薄液少許ヲ加ヘテ能ク磨潰シ其ノ液ヲ顯微鏡ニ照シテ每鏡面微粒子ノ有無ヲ檢シ之ヲ發見スルコト四鏡面以下ノモノニハ蠶卵蠶紙ノ裏面ニ雛形第四號ノ製糸用種検査合格ノ証印ヲ押捺ス

第十四條 第五條第一號ノ検査發蛾ノ時期ニ迫ルモ蠶種検査員ノ臨檢ナキトキハ蠶種製造者ハ其ノ旨ヲ最寄警察官ニ申告シ検査ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 警察官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ最寄蠶種製造者中適當ト認めタル者二名ヲ選定シ警察官立會ノ上検査ヲ行ハシムヘシ
前項ノ選定ニ當リタル者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 前條ノ検査人蠶種検査法第三條第四條ニ違背セスト認めタルトキハ雛形第二號ノ種繭證明書ヲ製シ警察官ノ檢印ヲ受ケ其ノ一通ヲ検査請求者ニ付與シ他ノ一通ヲ所轄蠶種検査所ニ送付スヘシ
検査ヲナシタル掃殻ハ其ノ蠶紙ノ裏面ニ自己ノ檢印ヲ押捺スヘシ

第十七條 蠶種製造者種繭證明書ヲ毀損若ハ紛失シタルトキハ所轄蠶種検査所ニ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第十八條 蠶種製造者種繭證明書アル繭ノ全部若ハ其ノ幾分賣渡シ買受ケ若ハ讓渡シ讓受ケタルトキハ受渡者連署ノ上種繭證明書ヲ添へ所轄蠶種検査所ニ種繭證書

ノ書換若ハ下付ヲ請求スヘシ

第十九條 地方長官ハ蠶種検査所ノ位置及管轄區域ヲ定メ若ハ變更ヲナストキハ豫メ農商務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

蠶種検査所ヲ開始シ又ハ閉鎖スルトキハ亦同シ

第二十條 第五條第三號若ハ蚕種検査法第八條第二項ノ検査開始期日ハ毎年九月一日以後トス

第二十一條 蠶種検査員ハ品行方正ニシテ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ地方長官之ヲ命スヘシ

- 一 農商務省蠶業講習所農務局舊蠶業試驗場蠶事部卒業ノ證書ヲ有スル者
- 二 農務局ノ檢定試験ニ及第シ其証書ヲ有スル者
- 三 地方長官ノ信認セル學校講習所傳習所又ハ試験ニ於テ蠶業ニ關スル學科ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者其他蠶業ニ熟達シ成繭鑑査ニ精通セル者

第二十二條 地方長官ハ蠶種検査員ヲ命免シタルトキハ其都度農商務大臣ニ報告シ管内ニ告示スヘシ

第二十三條 地方長官蠶種検査員ヲ命シタルトキハ雛形第八號ノ證票ヲ付與スヘシ

第二十四條 蠶種検査員証票ヲ毀損シ若ハ紛失シタルトキハ地方長官ニ届出テ書換若ハ再下付ヲ請求スヘシ

第二十五條 蠶種検査員證票ノ紛失ヲ届出ラタルトキハ地方長官ハ其旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第二十六條 農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得タル學校講習所傳習所若ハ試驗場ニ於テ製造スル蠶種ハ蠶種検査法及本則ニ準シ検査ヲ行ヒ原種トシテ讓渡スコトヲ得

但シ此場合ニ於テハ該校、所、場名アル検査合格證印ヲ捺捺スヘシ

第二十七條 地方長官ハ毎年五月十五日迄ニ雛形第九號ニ據リ前年度ノ検査成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十八條 第一條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十九條 蠶種検査員監督ノ方法及検査實施ニ關スル手續ハ地方長官之ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ

第一號 蠶種掃立蛾數及製造豫算額届
蠶種掃立蛾數及製造豫算額届

何	々	何	々	何	々	何	々	何	々	製 造 豫 算 額	
										原 種 掃 立 蛾 數	何 枚
何	々	何	々	何	々	何	々	何	々	全	全
何	々	何	々	何	々	何	々	何	々	全	全

何	々	全	全	全	全	全	全	全	全
計		全	全	全	全	全	全	全	全

右及御届候也

年月日

郡市町村番地

氏

名印

地方長官宛

第二號 種繭証明書(繭一名稱毎ニ下付ス)

第 號 種繭証明書

郡市町村番地

繭種製造者

氏

名

一 繭春蠶(夏秋蠶)

名稱

何石何斗何升何合

右種繭検査ニ合格セルコトヲ証ス

年月日

道廳(府)(縣)蠶種検査員 氏

名印

又ハ

道廳(府)(縣)蠶種検査所

印

(立會検査ノトキハ立會検査人ノ住所氏名印)

第三號 原種用印

圓形 徑七分
肉色 黒



第四號 製糸用種検査合格証印

橢圓形
長一寸五分短徑一寸
肉色 朱



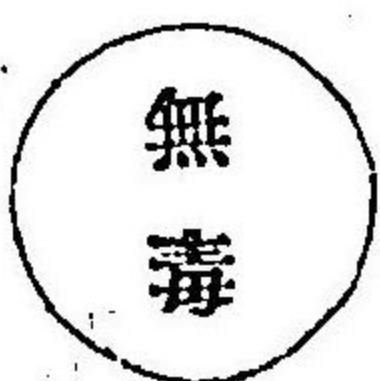
第五號 有毒印

長方形 縱三分橫二分
肉色 黒

有毒

第六號 無毒印

圓形 徑二分五厘
肉色 朱



第七號 原種用検査合格証印

圓形 徑一寸一分
肉色 朱



第八號 蠶種検査員証票

木製
縦二寸五分
横一寸八分

第 號

○ 蠶種検査員

氏名

明治年月日下付

道廳府縣
名ノ烙印

第九號 蠶種検査成績報告ハ之ヲ略ス

◎民法中修正

(明治二十九年四月二十三日法律第八十九號)

民法第一編第二編第三編別冊ノ通定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第二十八號民法財産編財産取得編債權擔保編證據編ハ此法律發布ノ日ヨリ廢止ス (別冊)

○民法

第一編 總則

第一章 人

第一節 私權ノ享有

第一條 私權ノ享有ハ出生ニ始マル

第二條 外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除ク外私權ヲ享有ス

第二節 能力

第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス

第四條 未成年者カ法律行為ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行為ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ反スル行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第五條 法定代理人カ目的ヲ定メテ處分ヲ許シタル財産ハ其目的ノ範圍内ニ於テ未成年者隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メスシテ處分ヲ許シタル財産ハ處分スルモ亦同シ

第六條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ未成年者カ未タ其營業ニ堪ヘサル事跡アルトキハ其法定代理人ハ親族編ノ規定ニ從ヒ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人配偶者、四親等内ノ親族、戶主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第八條 禁治産ハ之ヲ後見ニ付ス

第九條 禁治産者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ得

第十一條 心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁治産者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

第十二條 準禁治産者カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

- 一 元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト
 - 二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
 - 三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
 - 四 訴訟行爲ヲ爲スコト
 - 五 贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
 - 六 相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト
 - 七 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト
 - 八 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト
 - 九 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸借ヲ爲スコト
- 裁判所ハ場合ニ依リ準禁治産者カ前項ニ掲ケサル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意

意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十三條 第七條及ヒ第十條ノ規定ハ準禁治産ニ之ヲ準用ス

第十四條 妻カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クコトヲ得ス

一 第十二條第一項第一號乃至第六號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコト

二 贈與若クハ遺贈ヲ受諾シ又ハ之ヲ拒絕スルコト

三 身體ニ羈絆ヲ受クヘキ契約ヲ爲スコト

前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十五條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル妻ハ其營業ニ關シテハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有ス

第十六條 夫ハ其與ヘタル許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得但其取消又ハ制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

- 一 夫ノ生死分明ナラサルトキ
- 二 夫カ妻ヲ遺棄シタルトキ
- 三 夫カ禁治産者又ハ準禁治産者ナルトキ
- 四 夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ私宅ニ留置セラレタルトキ

五 夫カ禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ在ルトキ
六 夫婦ノ利益相反スルトキ

第十八條 夫カ未成年者ナルトキハ第四條ノ規定ニ依ルニ非サレハ妻ノ行爲ヲ許可
スルコトヲ得ス

第十九條 無能力者ノ相手方ハ其無能力者カ能力者ト爲リタル後之ニ對シテ一ヶ月
以上ノ期限内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スル
コトヲ得若シ無能力者カ其期限内ニ確答ヲ發セサルトキハ其行爲ヲ追認シタルモ
ノト看做ス

無能力者ヲ未タ能力者トナラサル時ニ於テ夫又ハ法定代理人ニ對シ前項ノ催告ヲ
爲スモ其期限内ニ確答ヲ發セサルトキ亦同シ但法定代理人ニ對シテハ其権限内ノ
行爲ニ付テノミ此催告ヲ爲スコトヲ得

特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踐ミタル通知ヲ發セサル
トキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

準禁治産者及ヒ妻ニ對シテハ第一項ノ期間内ニ保佐人ノ全意又ハ夫ノ許可ヲ得テ
其行爲ヲ追認スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ禁治産者又ハ妻カ其期限内ニ右ノ
全意又ハ認可ヲ得タル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

第二十條 無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ用弁タルトキハ其行

爲ヲ取消スコトヲ得ス

第三節 住所

第二十一條 各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其住所トス

第二十二條 住所ノ知レサル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ト看做ス

第二十三條 日本ニ住所ヲ有セサル者ハ其日本人タルト外國人タルトヲ問ハス日本
ニ於ケル居所ヲ以テ其住所ト看做ス但法例ノ定ムル所ニ從ヒ其住所ノ法律ニ依ル
ヘキ場合ハ此限ニ在ラス

第二十四條 或行爲ニ付キ假住所ヲ撰定シタルトキハ其行爲ニ關シテハ之ヲ住所ト
看做ス

第四節 失踪

第二十五條 從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者カ其財産ノ管理人ヲ置カサリシトキ
ハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ
命スルコトヲ得本人ノ不在中管理人ノ權限カ消滅シタルトキ亦全シ

本人カ後日ニ至リ管理人ヲ置キタルトキハ裁判所ハ其管理人利害關係人又ハ檢事
ノ請求ニ因リ其命令ヲ取消スコトヲ要ス

第二十六條 不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサルト
キハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第二十七條 前二條規定ニ依リ裁判所ニ於テ選任シタル管理人ハ其管理スヘキ財産ノ目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但其費用ハ不在者ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得右ノ外總テ裁判所カ不在者ノ財産ノ保存ニ必要ト認ムル處分ハ之ヲ管理人ニ命スルコトヲ得

第二十八條 管理人カ第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキ亦同シ

第二十九條 裁判所ハ管理人ヲシテ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

裁判所ハ管理人ト不在者トノ關係其他ノ事情ニ依リ不在者ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ得

第三十條 不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
戰地ニ臨ミタル者沈没シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後船舶ノ沈没シタル後又ハ其他ノ危難ノ去

リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ

第三十一條 失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間滿了ノ時ニ死亡シタルモノト看做ス

第三十二條 失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定メタル時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス但失踪ノ宣告後其取消前ニ善意ヲ以テ爲シタル行爲ハ其効力ヲ變セズ失踪ノ宣告ニ因リテ財産ヲ得タル者ハ其取消ニ因リテ權利ヲ失フモ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ其財産ヲ返還スル義務ヲ負フ

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス

第三十四條 票祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商事會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

前項ノ社團法人ニハ總テ商事會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 外國法人ハ國其國ノ行政區畫及ヒ商事會社ヲ除ク外其成立ヲ認許セズ

但法律又ハ條約ニ依リテ認許セラレタルモノハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リテ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及法律又ハ條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第三十七條 社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 資産ニ關スル規定

五 理事ノ任免ニ關スル規定

六 社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

第三十八條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第三十九條 財團法人ノ設立者ハ其設立ヲ目的トスル寄附行為ヲ以テ第三十七條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十條 財團法人ノ設立者カ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死

亡シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十一條 生前處分ヲ以テ寄附行為ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準用ス

遺言ヲ以テ寄附行為ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十二條 生前處分ヲ以テ寄附行為ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ法人設立ノ許可アリタル時ヨリ法人ノ財産ヲ組成ス

遺言ヲ以テ寄附行為ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ遺言カ効力ヲ生シタル時ヨリ法人ニ歸屬シタルモノト看做ス

第四十三條 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行為ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ賛成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責ニ任ス

第四十五條 法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人

ニ對抗スルコトヲ得ス
 法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 目的
 - 二 名稱
 - 三 事務所
 - 四 設立許可ノ年月日
 - 五 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
 - 六 資産ノ總額
 - 七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法
 - 八 理事ノ氏名、住所
- 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
 登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス
 第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
 第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ全期內ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲ス

コトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及ヒ前條ノ規定ハ外國法人カ日本ニ事務所ヲ設ケル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

外國法人カ始メテ日本ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所所在地ニ在ルモノトス
 第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年年初ノ三箇月内ニ財産目錄ヲ作り常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設ケルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス社團法人ハ社員員簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第二節 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス
 理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行為ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行為又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限リ特定ノ行為ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

第五十七條 法人ト理事トノ利害相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 法人ニハ定款、寄附行為又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

- 一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
- 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
- 三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト

四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト

第六十條 社團法人ノ理事ハ少クモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス

第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此定款ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

第六十二條 總會ノ招集ハ少クトモ五日前に其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ハ委任シタルモノヲ除ク外總テ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 各議員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出ダスコトヲ得

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス

第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第三節 法人ノ解散

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 定款又ハ寄附行為ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生

二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其ノ成功ノ不能

三 破産

四 設立許可ノ取消

社團法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 總會ノ決議

二 社員ノ缺亡

第六十九條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ

爲スコトヲ得ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若

クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ

其他公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行為ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬

ス

定款又ハ寄附行為ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリ

シトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財

産ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレタル財産ハ國庫ニ歸屬ス

第七十三條 解散シタル法人ハ精算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其精算ノ結了ニ至ルマ

テ尙ホ存スルモノト看做ス

第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其精算人ト爲ル但定

款若クハ寄附行為ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此

限ニ在ラス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ精算人タル者ナキトキ又ハ精算人ノ缺ケタル爲メ

損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權

ヲ以テ精算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ

又ハ職權ヲ以テ精算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 精算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週間内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

精算中ニ就職シタル精算人ハ就職後一週間内其氏名住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十八條 精算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ結了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ引渡

精算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 精算人ハ其就職ノ日ヨリ二ヶ月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ニ精算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但精算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルヲ得ス精算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未タ歸屬權利者

ニ引渡ササル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 精算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ精算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス精算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終リタルモノトス本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第八十二條 法人ノ解散及ヒ精算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 精算カ結了シタルトキハ精算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ精算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ゲタ

ルトキ

四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 五 第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲ス丁ヲ怠リタルトキ
 六 第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告
 ヲ爲シタルトキ

第三章 物

第八十五條 本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ

第八十六條 土地及ヒ其定著物ハ之ヲ不動産トス

此他ノ物ハ總テ動産トス

無記名債權ハ之ヲ動産ト看做ス

第八十七條 物ノ所有者カ其物ノ當用ニ供スル爲メ自己ノ所有ニ屬スル他ノ物ヲ以

テ之ニ附屬セシメタルトキハ其附屬セシメタル物ヲ從物トス

從物ハ主物ノ處分ニ隨フ

第八十八條 物ノ用方ニ從ヒ收取スル產出物ヲ天然果實トス

物ノ使用ノ對價トシテ受クヘキ金錢其他ノ物ヲ法定果實トス

第八十九條 天然果實ハ其元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有スル者ニ屬

ス 法定果實ハ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ之ヲ取得ス

第四章 法律行為

第一節 總則

第九十條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス

第九十一條 法律行為ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル意

思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第九十二條 法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル習慣アル場合ニ於テ法

律行為ノ當事者カ之ニ依ル意思ヲ有セサルモノト認ムヘキトキハ其習慣ニ從フ

第二節 意思表示

第九十三條 意思表示ハ表意者カ其真意ニ非サルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル爲メ其

効力ヲ妨ケララルルコトナシ但相手方カ表意者ノ真意ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得

ヘカリシトキハ其意思表示ハ無効トス

第九十四條 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十五條 意思表示ハ法律行為ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ

重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

第九十六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得

或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ其事

實ヲ知リタルトキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得
詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十七條 隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其効力
不生ス

表意者カ通知ヲ發シタル後ニ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ意思表示ハ之ヲ爲メニ其効
力ヲ妨ケラレルコトナシ

第九十八條 意思表示ノ相手方カ尠ク受ケタルトキニ未成年者又ハ禁治産者ナリシ
トキハ其意思表示ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス但其法定代理人カ之ヲ知リタル
後ハ此限リニ在ラス

第三節 代理

第九十九條 代理人カ其權限内ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲シタル意思
表示ハ直接ニ本人ニ對シテ其効力ヲ生ス

前項ノ規定ハ第三者カ代理人ニ對シテ爲シタル意思表示ニ之ヲ準用ス

第一百條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サズシテ爲シタル意思表示ハ自己ノ爲
メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但相手方カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知リ又ハ之
ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一百一條 意思表示ノ効力カ意思ノ欠缺、詐欺、強迫又ハ或事情ヲ知リタルコト若ク

ハ之ヲ知ラザル過失アリタルコトニ因リテ影響ヲ受クヘキ場合ニ於テ其事實ノ有
無ハ代理人ニ付キ之ヲ定ム

特定ノ法律行為ヲ爲スコトヲ委託セラレタル場合ニ於テ代理人カ本人ノ指圖ニ從
ヒ其行為ヲ爲シタルトキハ本人ハ其自ラ知リタル事實ニ付キ代理人ノ不知ヲ出張
スルコトヲ得ズ其過失ニ因リテ知ラザリシ事情ニ付キ亦同シ

第一百二條 代理人ハ能力者タルコトヲ要セス

第一百三條 權限ノ定ナキ代理人ハ左ノ行為ノミヲ爲ス權限ヲ有ス

一 保存行為

二 代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變セサル範圍内ニ於テ其利用受ハ改良ヲ

目的トスル行為

第一百四條 委任ニ因ル代理人ハ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由
アルトキニ非サレハ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ス

第一百五條 代理人カ前條ノ場合ニ於テ復代理人ヲ選任シタルトキハ選任及ヒ監督ニ
付キ本人ニ對シテ其責ニ任ス

代理人カ本人ノ指名ニ從ヒテ復代理人ヲ選任シタルトキハ其不適任又ハ不誠實ナ
ルコトヲ知リテ之ヲ本人ニ通知シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其
責ニ任セス

第六六條 法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ前條第一項ニ定メタル責任ノミヲ負フ

第七條 復代理人ハ其權限内ノ行為ニ付キ本人ヲ代表ス

第八條 何人ト雖モ同一ノ法律行為ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコトヲ得ス但債務ノ履行ニ付テハ此限ニ在ラス

第九條 第三者ニ對シテ他人ニ代理撰ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其代理權ノ範圍内ニ於テ其他人ト第三者トノ間ニ爲シタル行為ニ付キ其責任ニ任ス

第十條 代理人カ其權限外ノ行為ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス
一 本人ノ死亡
二 代理人ノ死亡、禁治産又ハ破産

此委任ニ因ル代理權ハ委任ノ終了ニ因リテ消滅ス

第十二條 代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但第三者カ過失ニ因リテ事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第十三條 代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル契約ハ本人カ其退

認ヲ爲スニ非サレハ之ニ對シテ其効力ヲ生セス

追認又ハ其拒絕ハ相手方ニ對シテ之レヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ズ但相手方カ其事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第十四條 前條ノ場合ニ於テ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追認ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若シ本人カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ追認ヲ拒絕シタルモノト看做ス

第十五條 代理權ヲ有セサル者ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認ナキ間ハ相手方ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得但契約ノ相手方カ代理權ナキヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第十六條 追認ハ別段ノ意思表示ナキトキハ契約ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第十七條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スルコト能ハス且本人ノ追認ヲ得サリシトキハ相手方ノ撰擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責任ニ任ス

前項ノ規定ハ相手方ト代理權ナキコトヲ知リタルトキ若クハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セサリシトキハ之ヲ適用セズ

第十八條 單獨行為ニ付テハ其行為ノ當時相手方カ代理人ト稱スル者ノ代理權ナ

民法

三百四十九

之ヲ承認スルヲ爲スニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハサズトキニ限リ前五條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セサル者ニ對シ其同意ヲ得テ單獨行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四節

第十九條

無効ノ行爲ハ追認ニ因リテ其効力ヲ生セス但當事者方其無効ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行爲ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十條

取消シ得ヘキ行爲ハ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者其代理人又ハ承繼人ニ限リ之ヲ取消ス可トナ得

妻ガ爲シタル行爲ハ夫モ亦之ヲ取消スコトヲ得

第二十一條

取消シタル行爲ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做ス但無能力者ハ其行爲ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ

第二十二條

取消シ得ヘキ行爲ハ第二百十條ニ掲ゲタル者カ之ヲ追認シタルトキハ初ヨリ有効ナリシモノト看做ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第二十三條

取消シ得ヘキ行爲ノ相手方カ確定セル場合ニ於テ其取消又ハ追認ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十四條

追認ハ取消ノ原因アル情況ノ止ミタル後之ヲ爲スニ非サレハ其効力ナシ

禁治産者カ能力ヲ回復シタル後其行爲ヲ了知シタルトキハ其了知シタル後ニ非サ

レハ追認ヲ爲スコトヲ得ス前二項ノ規定、夫又ハ法定代理人カ追認ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十五條

前條ノ規定ニヨリ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ後取消シ得ヘキ行爲ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス但異議ヲ留メタルトキハ此限ニ在ラス

一 全部又ハ一部ノ履行

二 履行ノ請求

三 更改

四 擔保ノ供與

五 取消シ得ヘキ行爲ニ因リテ取消シタル權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡

六 強制執行

第二百十六條 取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第五節

條件及以期限

第二十七條

停止條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其効力ヲ生ス解除條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其効力ヲ失フ當事者カ條件成就ノ効果ヲ

其成就以前ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第二百二十八條 條件附法律行為ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リ其行為ヨリ生スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス
第二百二十九條 條件ノ成否未定ノ間ニ於テ其當事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得

第二百三十條 條件ノ成就ニ因リテ不利益ヲ受クヘキ當事者カ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタルトキハ相手方ハ其條件ヲ成就シタルモノト看做スルコトヲ得

第二百三十一條 條件カ法律行為ノ當時既ニ成就セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行為ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無効トス
條件ノ不成就カ法律行為ノ當時既ニ確定セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行為ハ無効トシ解除條件ナルトキハ無條件トス

前二項ノ場合ニ於テ當事者カ條件ノ成就又不成就ヲ知ラサル間ハ第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ規定ヲ準用ス

第二百三十二條 不法ノ條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トス不法行為ヲ爲ササルヲ以テ條件トスルモノ亦同シ

第二百三十三條 不能ノ停止條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トス不能ノ解除條件ヲ附シタル法律行為ハ無條件トス

第二百三十四條 停止條件附法律行為ハ其條件カ單ニ債務者ノ意思ノミニ係ルトキハ

無効トス

第三百三十五條 法律行為ニ始期ヲ附シタルトキハ其法律行為ノ履行ハ期限ノ到來スルマテ之ヲ請求スルコトヲ得ス
法律行為ニ終期ヲ附シタルトキハ其法律行為ノ効力ハ期限ノ到來シタルトキニ於テ消滅ス

第三百三十六條 期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定ス
期限ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得但之カ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第三百三十七條 左ノ場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ス
一 債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
二 債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ
三 債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セザルトキ

第五章 期間

第三百三十八條 期間ノ計算法ハ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行為ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ從フ

第三百三十九條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス
第四百十條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セズ但其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限リニ在ラス

第四百十一條 前條ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス
第四百十二條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當タルトキハ其日ニ取引
ヲ爲ササル慣習アル場合ニ限り期間ハ其翌日ヲ以テ滿了ス

第四百十三條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算
ス

週、月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ
其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合
ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ満期日トス

第六章 時効

第一節 總則

第四百十四條 時効ノ効力ハ其起算日ニ遡ル

第四百十五條 時効ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲
スコトヲ得ス

第四百十六條 時効ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第四百十七條 時効ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス

- 一 請求
- 二 差押、假差押又ハ假處分

三 承認

第四百十八條 前條ノ時効中斷ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ於テノミ其効力ヲ有ス

第四百十九條 裁判上ノ請求ハ訴ノ却下又ハ取下ノ場合ニ於テハ時効中斷ノ効力ヲ

生セス

第四百五十條 支拂命令ハ權利拘束カ其効力ヲ失フトキハ時効中斷ノ効力ヲ生セス

第四百五十一條 和解ノ爲メニスル呼出ハ相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキ

ハ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ時効中斷ノ効力ヲ生セス任意出頭ノ場合ニ

於テ和調ノ調ハサルトキ亦同シ

第四百五十二條 破産手續參加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請求カ却下セラレタルト

キハ時効中斷ノ効力ヲ有セス

第四百五十三條 催告ハ六ヶ月内ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意

出頭、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ時効中斷ノ効力ヲ

生セス

第四百五十四條 差押、假差押及ヒ假處分ハ權利者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從

ハサルニ因リテ取消サレタルトキハ時効中斷ノ効力ヲ生セス

第四百五十五條 差押、假差押及ヒ假處分ハ時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲サ

サルトキハ之ヲ其者ニ通知シタル後ニ非サレハ時効中斷ノ効力ヲ生セス

第五百十六條 時効中斷ノ効力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ相手方ノ權利ニ付キ處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要セス

第五百十七條 中斷シタル時効ハ其中斷ノ事由ヲ終了シタル時ヨリ更ニ其進行ニ始ム

裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム

第五百十八條 時効ノ期間滿了前六ヶ月内ニ於テ未成年者又ハ禁治産者カ法定代理人ヲ有セサリシトキハ其者カ能力者ト爲リ又ハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六ヶ月内ハ之ニ對シテ時効完成セス

第五百十九條 無能力者カ其財産ヲ管理スル父母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ附テハ其者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人ヲ就職シタル時ヨリ六ヶ月内ハ時効完成セス

妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六ヶ月内亦同シ

第六十條 相續財産ニ關シテハ相續人ノ確定シ、管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六ヶ月内ハ時効完成セス

第六十一條 時効ノ期間滿了ノ時ニ當タリ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ時効ヲ中斷スルコト能ハサルトキハ其妨碍ノ止ミタル時ヨリ二週間内ハ時効完成ス

第二節 取得時効

第六十二條 二十年間所有ノ意思ヲ以テ平然且公然ニ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取得ス

十年間所有ノ意思ヲ以テ平然且公然ニ他人ノ不動産ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且過失ナカリシトキハ其不動産ノ所有權ヲ取得ス

第六十三條 所有權以外ノ財産權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平然且公然ニ行使スル者ハ前條ノ區別ニ從ヒ二十年又ハ十年ノ後其權利ヲ取得ス

第六十四條 第六十二條ノ時効ハ占有者カ任意ニ其占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキハ中斷ス

第六十五條 前條ノ規定ハ第六十三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三節 消滅時効

第六十六條 消滅時効ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ始期附又ハ停止條件權利ノ目的物ヲ占有スル第三者ノ爲メニ其占有ノ時ヨリ取得時効ノ進行スルコトヲ妨ケス但權利者ハ其時効ヲ中斷スル爲メ何時ニテモ占有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

第六十七條 債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス
債權又ハ所有權ニ非サル財産權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第六十八條 定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス最後ノ辨濟期ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキ亦同シ
定期金ノ債權者ハ時効中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第七十條 左ニ掲ケタル債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 醫師、產婆及ヒ藥劑師ノ治術、勤勞及ヒ調劑ニ關スル債權

二 技師、棟梁及ヒ請負人ノ工事ニ關スル債權但時効ハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第七十一條 辯護士ハ事件終了ノ時ヨリ公證人及ヒ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付キ其責ヲ免ル

第七十二條 辯護士、公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關ル債權ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス但其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス

第七十三條 左ニ掲ケタル債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

- 一 生産者、卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣卸シタル產物及ヒ商品ノ代價
- 二 居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權
- 三 生徒及ヒ習業者ノ教育、衣食及ヒ住宿ノ代料ニ關スル校主、塾主教師及ヒ師匠ノ債權

第七十四條 左ニ掲ケタル債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

- 一 月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料
- 二 勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價
- 三 運送賃

四 旅店、料理店、貸席及ヒ娯遊場ノ宿泊料、飲食料、席料、木戸錢、消費物代價並ニ

立替金

五 動産ノ損料

第二編 物權

第一章 總則

第七十五條 物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス

第七十六條 物權ノ設定及ヒ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其効力ヲ生ス

第七十七條 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十八條 動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ其動産ノ引渡アルニ非サレハ之ヲ以テ第

三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十九條 同一物ニ付所有權及ヒ他ノ物權カ全一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ消滅ス但其物又ハ其物權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラズ
所有權以外ノ物權及ヒ之ヲ目的トス他ノ權利カ同一人ニ歸シタルトキハ其權利ハ消滅ス此場合ニ於テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス
前二項ノ規定ハ占有權ニハ之ヲ適用セス

第二章 占有權

第一節 占有權ノ取得

第八十條 占有權ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルニ因リテ之ヲ取得ス

第八十一條 占有權ハ代理人ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第八十二條 占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡ニ依リテ之ヲ爲ス讓受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ所持スル場合ニ於テハ占有權ノ讓渡、當事者ノ意思表示ノミニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ依リテ占有權ヲ取得ス
第八十四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テ本人カ其代理人ニ對シ爾後第

三者ノ爲メニ其物ヲ占有スヘキ旨ヲ命シ第三者之ヲ承諾シタルトキハ其第三者ハ占有權ヲ取得ス

第八十五條 權原ノ性質上占有者ニ所有ノ意思ナキモノトスル場合ニ於テハ其占有者カ自己ニ占有ヲ爲サシメタル者ニ對シ所有ノ意思アルコトヲ表示シ又ハ新權原ニ因リ更ニ所有ノ意思ヲ以テ占有ヲ始ムルニ非サルハ權有ハ其性質ヲ變セス

第八十六條 占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意平穩且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定ス
前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定ス

第八十七條 占有者ノ承繼人ハ其撰擇ニ從ヒ自己ノ占有ノミチ主張シ又ハ自己ノ占有ニ前主ノ占有ヲ併セテ之ヲ主張スルコトヲ得
前主ノ占有ヲ併テ主張スル場合ニ於テハ其瑕疵モ又之ヲ承繼ス

第二節 占有權ノ効力

第八十八條 占有者カ占有物ノ上ニ行使スル權利ハ之ヲ適法ニ有スルモノト推定ス

第八十九條 善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得ス
善意ノ占有者カ本權ノ訴ニ於テ敗訴シタルトキ其ノ起訴ノ時ヨリ惡意ノ占有者ト

看做ス

第九十條 惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還シ且其既ニ消費シ過失ニ因リテ毀損シ又ハ
收取ヲ怠リタル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ
前項ノ規定ハ強暴又ハ隱祕ニ因ル占有者ニ之ヲ準用ス

第九十一條 占有物カ占有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルト
キハ惡意ノ占有者ハ其回復者ニ對シ其損害ノ全部ヲ賠償スル義務ヲ負ヒ善意ノ占
有者ハ其滅失又ハ毀損ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ賠償ヲ爲ス義務ヲ負
フ但所有ノ意思ナキ占有者ハ其善意ナルトキト雖モ全部ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス
第九十二條 平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキ
ハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺
失主ハ盜難ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得
第九十四條 占有者カ盜品又ハ遺失物ヲ競賣若クハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト同
種ノ物ヲ販賣スル商人ヨリ善意ニテ買受ケタルトキハ被害者又ハ遺失主ハ占有者ニ
拂ヒタル代價ヲ辨償スル非サレハ其物ヲ回復スルコトヲ得ス
第九十五條 他人カ飼養セシ家畜外ノ動物ヲ占有スル者ハ其占有ノ始善意ニシテ
且逃失ノ時ヨリ一ヶ月内ニ飼養主ヨリ回復ノ請求ヲ受ケサルトキハ其動物ノ上ニ

行使スル占有ヲ取得ス

第九十六條 占有者カ占有物ヲ返還スル場合ニ於テハ其物ノ保存ノ爲メニ費シタ
ル金額其他ノ必要費ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得但占有者カ果實ヲ取得シ
タル場合ニ於テハ通常ノ必要費ハ其負擔ニ歸ス
占有者カ占有物ノ改良ノ爲メニ費シタル金額其他ノ有益費ニ付テハ其價格ノ増加
カ現存スル場合ニ限り回復者ノ撰擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシ
ムルコトヲ得但惡意ノ占有者ニ對シテハ裁判所ハ回復者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ
期限ヲ許與スルコトヲ得

第九十七條 占有者ハ後五條ノ規定ニ從ヒ占有ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
他人ノ爲メニ占有ヲ爲ス者亦全シ

第九十八條 占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保持ノ訴ニ依リ其ノ妨
害ノ停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第九十九條 占有者カ其占有ヲ妨害セラレタル處アルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其
妨害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第二百條 占有者カ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リ其物ノ返還及ヒ
損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

占有回收ノ訴ハ侵奪者ノ特定承繼人ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス但其承繼人

カ侵奪ノ事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラズ

第二百一條 占有保持ノ訴ハ妨害ノ存スル間又ハ其止ミタル後一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其工事著手ノ時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其工事ノ竣成シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

占有保全ノ訴ハ妨害ノ危険ヲ存スル間ハ之ヲ提起スルコトヲ得但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生スル虞アルトキハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

占有回收ノ訴ハ侵奪ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百二條 占有ノ訴ハ本權ノ訴ト互ニ相妨クルコトナシ

占有ノ訴ハ本權ニ關スル理由ニ基キテ之ヲ裁判スルコトヲ得ス

第三節 占有權ノ消滅

第二百三條 占有權ハ占有者カ占有ノ意思ヲ拋棄シ又ハ占有物ノ所持ヲ失フニ因リテ消滅ス但占有者カ占有回收ノ訴ヲ提起シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テハ占有權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

- 一 本人カ代理人ヲシテ占有ヲ爲サシムル意思ヲ拋棄シタルコト
- 二 代理人カ本人ニ對シ爾後自己又ハ第三者ノ爲メニ占有物ヲ所持スヘキ意思ヲ表示シタルコト

占有權ハ代理權ノ消滅ノミニ因リテ消滅セス

第四節 準占有

第二百五條 本章ノ規定ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財產權ノ行使ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三章 所有權

第一節 所有權ノ限界

第二百六條 所有權ハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七條 土地ノ所有權ハ法令ノ制限内ニ於テ其土地ノ上下ニ及フ

第二百八條 數人ニテ一棟ノ建物ヲ區分シ各其一部ヲ所有スルトキハ建物及ヒ其附屬物ノ共用部分ハ其共有ニ屬スルモノト推定ス

第二百九條 土地ノ所有者ハ疆界又ハ其近傍ニ於テ牆壁若クハ建物ヲ築造シ又ハ之ヲ修繕スル爲メ必要ナル範圍内ニ於テ隣地使用ヲ請求スルコトヲ得但隣人ノ承諾アルニ非サレハ其住家ニ立入ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其償金ヲ請求スルコトヲ得

第二百十條 或土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ公路ニ通セサルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ圍繞地ヲ通行スルコトヲ得

池沼、河渠若クハ海洋ニ由ルニ非サレハ他ニ通スルコト能ハス又ハ崖岸アリテ土地ト公路ト著シキ高低ヲ爲ストキ亦同シ

第二百一十一條 前條ノ場合ニ於テ通行ノ場所及ヒ方法ハ通行權ヲ有スル者ノ爲メニ必要ニシテ且圍繞地ノ爲メニ損害最モ少キモノヲ撰フコトヲ要ス

通行權ヲ有スル者ハ必要アルトキハ通路ヲ開設スルコトヲ得

第二百一十二條 通行權ヲ有スル者ハ地行地ノ損害ニ對シテ償金ヲ拂フコトヲ要ス但通路開設ノ爲メニ生シタル損害ニ對スルモノヲ除ク外一年毎ニ其償金ヲ拂フコトヲ得

第二百一十三條 分割ニ因リ公路ニ通セサル土地ヲ生シタルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ他ノ分割者ハ所有地ノミヲ通行スルコトヲ得此場合ニ於テハ償金ヲ拂フコトヲ要セス

前項規定ハ土地ノ所有者カ其土地ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一十四條 土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルヲ効タルコトヲ得ス

第二百一十五條 水流カ事變ニ因リ低地ニ於テ阻塞シタルトキハ高地ノ所有者ハ自費ヲ以テ其疏通ニ必要ナル工事ヲ爲スコトヲ得

第二百一十六條 甲地ニ於テ貯水、排水又ハ引水ノ爲メニ設ケタル工作物ノ破潰又ハ阻塞ニ因リテ乙地ニ損害ヲ及ボシ又ハ及ボス虞アルトキハ乙地ノ所有者ハ甲地ノ

所有者ヲシテ修繕若クハ疏通ヲ爲サシメ又必要アルトキハ豫防工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百一十七條 前二條ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ニ付キ別段ノ習慣アルトキハ其習慣ニ從フ

第二百一十八條 土地ノ所有者ハ直チニ雨水ヲ隣地ニ注瀉セシムヘキ屋根其他工作物ヲ設ケルコトヲ得ス

第二百一十九條 溝渠其他ノ水流地ノ所有者ハ對岸ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其水路又ハ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

兩岸ノ土地カ水流地ニ所有者ニ屬スルトキハ其所有者ハ水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得但下口ニ於テ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百二十條 高地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カス爲メ又ハ家用若クハ農工業用ノ餘水ヲ排泄スル爲メ共路、公流又ハ下水道ニ至ルマテ低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得但低地ノ爲メニ損害最モ少キ場所及ヒ方法ヲ選フコトヲ要ス

第二百二十一條 土地ノ所有者ハ其所有地ノ水ヲ通過セシムル爲メ高地又ハ低地ノ所有者カ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作

物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十二條 水流地ノ所有者ハ堰ヲ設クル需要アルトキハ其堰ヲ對岸ニ附着セシムルコトヲ得但之ニ因リテ生シタル損害ニ對シテ償金ヲ拂フコトヲ要ス

對岸ノ所有者ハ水流地ノ一部カ其所有ニ屬スルトキハ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得但前條ノ規定ニ從ヒ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十三條 土地ノ所有者ハ隣地ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ疆界ヲ標示スヘキ物ヲ設クルコトヲ得

第二百二十四條 標界ノ設置及保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス但測量ノ費用ハ其土地ノ廣狹ニ應シテ之ヲ分擔ス

第二百二十五條 二棟ノ建物カ其所有者ヲ異ニシ且其間ニ空地アルトキハ各所有者ハ他ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ其疆界ニ圍障ヲ設クルコトヲ得

當事者ノ協議調ハサルトキハ前項ノ圍障ハ板屏又ハ竹垣ニシテ高サ六尺タルコトヲ要ス

第二百二十六條 圍障ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

第二百二十七條 相隣者ノ一人ハ第二百二十五條第二項ニ定メル材料ヨリ良好ナルモノヲ用井又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ設クルコトヲ得但之ニ因リテ生スル費用ノ増額ヲ負擔スルコトヲ要ス

第二百二十八條 前三條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百二十九條 疆界線上ニ設ケタル界標、圍障、牆壁及ヒ溝渠ハ相隣者ノ共有ニ屬スルモノト推定ス

第二百三十條 一棟ノ建物ノ部分ヲ成ス疆界線上ノ牆壁ニハ前條ノ規定ヲ適用セス高サノ不同ナル二棟ノ建物ヲ隔ツル牆壁ノ低キ建物ヲ踰ユル部分亦全シ但防火牆壁ハ此限ニ在ラス

第二百三十一條 相隣者ノ一人ハ共有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁カ此工事ニ耐ヘサルトキハ自費ヲ以テ工作ヲ加ヘ又ハ其牆壁ヲ改築スルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リテ牆壁ノ高サヲ増シタル部分ハ其工事ヲ爲シタル者ノ專有ニ屬ス

第二百三十二條 前條ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其償金ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十三條 隣場ノ竹木ノ枝カ疆界線ヲ踰ユルトキハ竹木ノ所有者ヲシテ其枝ヲ剪除セシムルコトヲ得隣地ノ竹木ノ根カ疆界線ヲ踰ユルトキハ之ヲ截取スルコトヲ得

第二百三十四條 建物ヲ築造スルニハ疆界線ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違ヒテ建築ヲ爲サントスル者アルトキハ隣地ノ所有者ハ其建築ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得但建築着手ノ時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其建築ノ竣成シタル後ハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

第二百三十五條 疆界線ヨリ三尺未満ノ距離ニ於テ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキ窓又ハ椽側ヲ設クル者ハ目隠ヲ附スルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ窓又ハ椽側ノ最モ隣地ニ近キ點ヨリ直角線ニテ疆界線ニ至ルマテヲ測算ス

第二百三十六條 前二條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百三十七條 井戸、用水溜下水溜又ハ肥料溜ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ六尺以上池地窖又ハ圃坑ヲ穿ツニハ三尺以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

水樋ヲ埋メ又ハ溝渠ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ其深サノ半以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但三尺ヲ超ユルコトヲ要セス

第二百三十八條 疆界線ノ近傍ニ於テ前條ノ工事ヲ爲ストキハ土砂ノ崩壞又ハ水若クハ汚液ノ滲漏ヲ防クニ必要ナル注意ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 所有權ノ取得

第二百三十九條 無主ノ動産ハ所有ノ意思ヲ以テ之ヲ占有スルニ因リテ其所有權ヲ取得ス

無主ノ不動産ハ國庫ノ所有ニ屬ス

第二百四十條 遺失物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ拾得者其所有權ヲ取得ス

第二百四十一條 埋藏物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後六ヶ月內ニ其所有者ノ知レサルトキハ發見者其所有權ヲ取得ス但他人ノ物ノ中ニ於テ發見シタル埋藏物ハ發見者及ヒ其物ノ所有者折半シテ其所有權ヲ取得ス

第二百四十二條 不動産ノ所有權ハ其不動産ノ從トシテ之ニ附合シタル物ノ所有權ヲ取得ス但權原ニ因リテ其物ヲ附屬セシメタル他人ノ權利ヲ妨ケス

第二百四十三條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産カ附合ニ因リ毀損スルニ非サルハ之ヲ分離スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其合成物ノ所有權ハ主タル動産ノ所有者ニ屬ス分離ノ爲メ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二百四十四條 附合シタル動産ニ付キ主從ノ區別ヲ爲スコト能ハサルトキハ各動産ノ所有者ハ其附合ノ當時ニ於ケル價格ノ割合ニ應シテ合成物ヲ共有ス

第二百四十五條 前二條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル物カ混和シテ識別スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十六條 他人ノ動産ニ工作ヲ加ヘタル者アルトキハ其加工物ノ所有權ハ材料ノ所有者ニ屬ス但工作ニ因リテ生シタル價格カ著シク材料ノ價格ニ超ユルトキ

ハ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

加工者カ材料ノ一部ヲ供シタルトキハ其價格ニ工作ニ因リテ生シタル價格ヲ加ヘタルモノカ他人ノ材料ノ價格ニ超ユルトキニ限り加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

第二百四十七條 前五條ノ規定ニ依リテ物ノ所有權カ消滅シタルトキハ其物ノ上ニ存セル他ノ權利モ亦消滅ス

右ノ物ノ所有者カ合成物、混和物又ハ加工物ノ單獨所有者ト爲リタルトキハ前項ノ權利ハ爾後合成物、混和物又ハ加工物ノ上ニ存シ其共有者ト爲リタルトキハ其持分ノ上ニ存ス

第二百四十八條 前六條ノ規定ノ適用ニ因リテ損失ヲ受ケタル者ハ第七百三條及ヒ第七百四條ノ規定ニ從ヒ償金ヲ請求スルコトヲ得

第三節 共有

第二百四十九條 各共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ其持分ニ應シタル使用ヲ爲スコトヲ得

第二百五十條 各共有者ノ持分ハ相均シキモノト推定ス

第二百五十一條 各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ共有物ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

第二百五十二條 共有物ノ管理ニ關スル事項ハ前條ノ場合ヲ除ク外各共有者ノ持分

ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス但保存行爲ハ各共有者之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 各共有者ハ其持分ニ應シ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他共有物ノ負擔ニ任

ス 共有者カ一年內ニ前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ他ノ共有者ハ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其物ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第二百五十四條 共有者ノ一人カ共有物ニ付キ他ノ共有者ニ對シテ存スル其權ハ其特定承繼人ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得

第二百五十五條 共有者ノ一人カ其持分ヲ拋棄シタルトキ又ハ相續人ナクシテ死亡シタルトキハ他ノ共有者ニ歸屬ス

第二百五十六條 各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得但五年ヲ超エサル期限內分割ヲ爲ササル契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

此契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百五十七條 前條ノ規定ハ第二百八條及ヒ第二百二十九條ニ掲ケタル共有物ニハ之ヲ適用セス

第二百五十八條 分割ハ共有者ノ協議調ハサルトキハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得 前項ハ場合ニ於テ現物ヲ以テ分割ヲ爲スコト能ハサルトキハ又ハ分割ニ因リ著シ

其價格ヲ損スル虞アルトキハ裁判所ハ其競賣ヲ命スルコトヲ得
 第二百五十九條 共有者ノ一人カ他ノ共有者ニ對シテ共有ニ關スル債權ヲ有スルト
 キハ分割ニ際シ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ以テ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ
 得

債權者ハ右ノ辨濟ヲ受クル爲メ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ賣却スル必要ア
 ルトキハ其賣却ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十條 共有物ニ付キ權利ヲ有スル者及ビ各共有者ノ債權者ハ自己ノ費用ヲ
 以テ分割ニ參加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ參加ノ請求アリタルニ拘ラス其參加ヲ待タスシテ分割ヲ爲シ
 タルトキハ其分割ハ之ヲ以テ參加ヲ請求シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百六十一條 各共有者ハ他ノ共有者カ分割ニ因リテ得タル物ニ付キ賣主ト同シ
 ク其持分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第二百六十二條 分割ヲ結了シタルトキハ各分割者ハ其受ケタル物ニ關スル證書ヲ
 保存スルコトヲ要ス

共有者ハ一同又ハ其中ノ數人ニ分割シタル物ニ關スル證書ハ其物ノ最大部分ヲ受
 ケタル者之ヲ保存スルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ最大部分ヲ受ケタル者ナキトキハ分割者協議ヲ以テ證書ノ保存

者ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス

證書ノ保存者ハ他ノ分割者ノ請求ニ應シテ其證書ヲ使用セシムルコトヲ要ス

第二百六十三條 共有ノ性質ヲ有スル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本節ノ
 規定ヲ適用ス

第二百六十四條 本節ノ規定ハ數人ニテ所有權以外ノ財産權ヲ有スル場合ニ之ヲ準
 用ス但法令ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四章 地上權

第二百六十五條 地上權地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲
 メ其土地ヲ使用スル權利ヲ有ス

第二百六十六條 地上權者カ土地ノ所有者ニ定期ノ地代ヲ拂フヘキトキハ第二百七
 十四條乃至第二百七十六條ノ規定ヲ準用ス

此他地代ニ付テハ貸賃借ニ關スル規定ヲ準用ス
 第二百六十七條 第二百九條乃至第二百三十八條ノ規定ハ地上權者間又ハ地上權者
 ト土地ノ所有者トノ間ニ之ヲ準用ス但第二百二十九條ノ推定ハ地上權設定後ニ爲
 シタル工事ニ付テノ之ヲ地上權者ニ準用ス

第二百六十八條 設定行爲ヲ以テ地上權ノ存續期間ヲ定メサリシ場合ニ於テ別段ノ
 慣習ナキトキハ地上權者ハ何時ニテモ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得但地代ヲ拂フヘ

トキハ一年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ期限ノ至ラザル一年分ノ地代ヲ拂フコトヲ要ス

地上權者カ前項ノ規定ニ依リテ其權利ヲ拋棄セルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ二十年以上五十年以下ノ範圍内ニ於テ工作物又ハ竹木ノ種類及ヒ狀況其他地上權設定ノ當時ノ事情ヲ斟酌シテ其存續期間ヲ定ム

第二百六十九條 地上權者ハ其權利消滅ノ時土地ヲ厚狀ニ復シテ其工作物及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得但土地ノ所有者カ時價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ地上權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
前項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第五章 永小作權

第二百七十條 永小作人ハ小作料ヲ拂ヒテ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七十一條 永小作人ハ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルコトヲ得ス
第二百七十二條 永小作人ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ耕作若クハ牧畜ノ爲メ土地ヲ賃貸スルコトヲ得但設定行爲ヲ以テ之ヲ禁シタルトキハ此限リニ在ラス
第二百七十三條 永小作人ノ義務ニ付テハ本章ノ規定及ヒ設定行爲ヲ以テ定メタル

モノノ外賃貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十四條 永小作人ハ不可抗力ニ依リ收益ニ付キ損失ヲ受ケタルトキト雖モ小作料ノ免除又ハ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

第二百七十五條 永小作人カ不可抗力ニ因リ引續キ三年以上全ク收益ヲ得ス又ハ五年以上小作料ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第二百七十六條 永小作人カ引續キ二年以上小作料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條 前六條ノ準定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ
第二百七十八條 永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ

長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス
永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五十年ヲ超スルコトヲ得ス

設定行爲ヲ以テ永小作權ノ存續期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ別段ノ慣習アル場合ヲ除ク外之ヲ三十年トス

第六章 地役權

第二百七十九條 第二百六十九條ノ規定ハ永小作權ニ之ヲ準用ス
第二百八十條 地役權者ハ設定行爲ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ

土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有ス但第三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セサルコトヲ要ス

第二百八十一條 地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地上ニ存スル地ノ權利ノ目的タルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス
第二百八十二條 土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ其土地ノ爲メニ又ハ其土地ノ上ニ存スル地役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ以テハ地役權ハ其各部ノ爲メニ又ハ其各部ノ上ニ存ス但地役權カ其性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス
第二百八十三條 地役權ハ繼續且表現ノモノニ限リ特効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第二百八十四條 共有者ノ一人カ時効ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ他ノ共有者モ亦之ヲ取得ス
共有者ニ對スル時効中斷ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ其効力ヲ生セス
地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其一人ニ對シテ時効停止ノ原因アル

モ時効ハ各共有者ノ爲メニ進行ス

第二百八十五條 用水地役權ノ承役地ニ於テ水カ要役地及ヒ承役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキハ其各地ノ需要ニ應シ先ツ之ヲ家用ニ供シ其殘餘ヲ他ノ用ニ供スルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
同一ノ承役地ノ上ニ數個ノ用水地役權ヲ設定シタルトキハ後ノ地役權者ハ前ノ地役權者ノ水ノ使用ヲ妨クルコトヲ得ス

第二百八十六條 設定行爲又ハ特別契約ニ因リ承役地ノ所有者カ其費用ヲ以テ地役權ノ行使ノ爲メニ工作物ヲ設ケ又ハ其修繕ヲ爲ス義務ヲ負擔シタルトキハ其義務ハ承役地ノ所有者ノ特定承繼人モ亦之ヲ負擔ス

第二百八十七條 承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免ルルコトヲ得

第二百八十八條 承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨サル範圍内ニ於テ其行使ノ爲メニ承役地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設費及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百八十九條 承役地ノ占有者カ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ地役權ハ之ニ因リテ消滅ス

第二百九十條 前條ノ消滅時効ハ地役權者ヲ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷ス
第二百九十一條 第六十七條第二項ニ規定セル消滅時効ノ期間ハ不繼續地役權ニ付テハ最後ノ行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨クヘキ事實ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百九十二條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其一人ノ爲メニ時効ノ中斷又ハ停止アルトキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ノ爲メニモ其効力ヲ生ス

第二百九十三條 地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セサル片ハ其部分ノミ時効ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用ス

第七節 留置權

第二百九十五條 他人ノ物ヲ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ其債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得但其債權カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第二百九十七條 留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ其債權ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得

前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第二百九十八條 留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スルコトヲ要ス

留置權者ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但其物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スハ此限ニ在ラス

留置權者カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ債務者ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十九條 留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出タシタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得

留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出タシタルトキハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限り所有者ノ撰擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第三百條 留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケス

第三百一條 債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第三百二條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但第二百九十八條第二項ノ規定ニ依リ質貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第八章 先取特權

第一節 總則

第三百三條 先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四條 先取特權ハ其目的物ノ賣却、質貸、滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ノ對價ニ付キ亦同シ

第三百五條 第二百九十六條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第二節 先取特權ノ種類

第一款 一般ノ先取特權

第三百六條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 共益ノ費用
- 二 葬式ノ費用

三 雇人ノ給料

四 日用品ノ供給

第三百七條 共益費用ノ先取特權ハ各債權者ノ共同利益ノ爲メニ爲シタル債務者ノ財産保存、清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在ス

前項ノ費用中總債務者ニ有益ナラザリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在ス

第三百八條 葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付テモ亦存在ス

第三百九條 雇人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六ヶ月間ノ給料ニ付キ存在ス但其金額ハ五十圓ヲ限リトス

第三百十條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六ヶ月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

第二款 動産ノ先取特權

第三百十一條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債權者ノ特定動産

ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ賃貸借
- 二 旅店ノ宿泊
- 三 旅客又ハ荷物ノ運輸
- 四 公吏ノ職務上ノ過失
- 五 動産ノ保存
- 六 動産ノ賣買
- 七 種苗又ハ肥料ノ供給
- 八 農工業ノ勞役

第三百十二條 不動産賃貸ノ先取特權ハ其不動産ノ賃貸其他賃貸借關係ヨリ生シタル賃貸人ノ債務ニ付キ賃貸人ノ動産ノ上ニ存在ス

第三百十三條 土地ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借地又ハ其利用ノ爲ニスル建物ニ備附ケタル動産、其土地ノ利用ニ供シタル動産及ヒ賃貸人ノ占有ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス

建物ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借人カ其建物ニ備附ケタル動産ノ上ニ存在ス

第三百十四條 賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ權理ニ及フ讓渡人又ハ轉貸人カ受クヘキ金額ニ付キ亦同シ

第三百十五條 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ前期、當期及ヒ次期ノ借貸其他ノ債務及ヒ前期並ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在ス

第三百十六條 借賃人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケタル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス

第三百十七條 旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料並ニ飲食料ニ付テキ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在ス

第三百十八條 運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ附隨ノ費用ニ付運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス

第三百十九條 第九十二條乃至第九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權ニ之ヲ準用ス

第三百二十條 公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在ス

第三百二十一條 動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付其動産ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ又存在ス

第三百二十二條 動産賣買ノ先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ

存在ス

第三百二十三條 種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用井タル後一年内ニ之ヲ用井タル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

第三百二十四條 農工業勞役先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三ヶ月間ノ賃金ニ付キ其勞ニ因リテ生シタル果實、又製作作物ノ上ニ存在ス

第三款 不動産ノ先取特權

第三百二十五條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定不動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ保存
- 二 不動産ノ工事
- 三 不動産ノ賣買

第三百二十六條 不動産保存ノ先取特權ハ不動産ノ上ニ存在ス
第三百二十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條 不動産工事ノ先取特權ハ工匠、技師及ヒ請負人カ債務者ノ不動産ニ關シテ爲シタル工事費用ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價カ現存スル場合ニ限り其増價額ニ付テノミ存在ス

第三百二十八條 不動産賣買ノ先取特權ハ不動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

第三節 先取特權ノ順位

第三百二十九條 一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フ

一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ効力ヲ有ス

第三百三十條 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ

- 第一 不動産賃貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權
- 第二 不動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ

第三 動産買賣ノ種苗肥料供給及ヒ農工業勞役先取特權

第一順位ノ先取特權カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シ

果實ニ關シテハ第一順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ賃貸人ニ屬ス

第三百三十一條 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フ

同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル

第三百三十二條 同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第四章 先取特權ノ効力

第三百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付之ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

不動産ニ付スハ先ツ特別擔保ノ目的タラサルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス

一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第三百三十六條 一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲ササルモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第三百三十七條 不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニヨリテ其効力ヲ保存ス

第三百三十八條 不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ其効力ヲ保存ス但工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付シテ存在セス

超過額ニ付シテ存在セス